証券コード　6768
東京証券取引所　第一部上場

株式会社タムラ製作所

2021年3月期 決算概要

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2021年 5月13日

TAMURA
Your One and Only Company

© 2021 TAMURA CORPORATION

本日のご説明



代表取締役社長

浅田　昌弘

© 2021 TAMURA CORPORATION

1. 2021年3月期 決算概要

2. 2022年3月期 通期業績予想

3. トピックス

【付録】参考資料

© 2021 TAMURA CORPORATION

1. 2021年3月期 決算概要

© 2021 TAMURA CORPORATION

損益計算書（要約）

- 期のはじめにコロナによる急激な停滞が生じたものの、全般的には緩やかな回復基調で推移
- 家電関連は巣ごもり需要が継続し、期の後半は自動化ニーズで産業機械関連が急拡大
- 今後の不確実な経営環境を保守的に見込み、7億5百万円の繰延税金資産を取り崩し

［百万円］

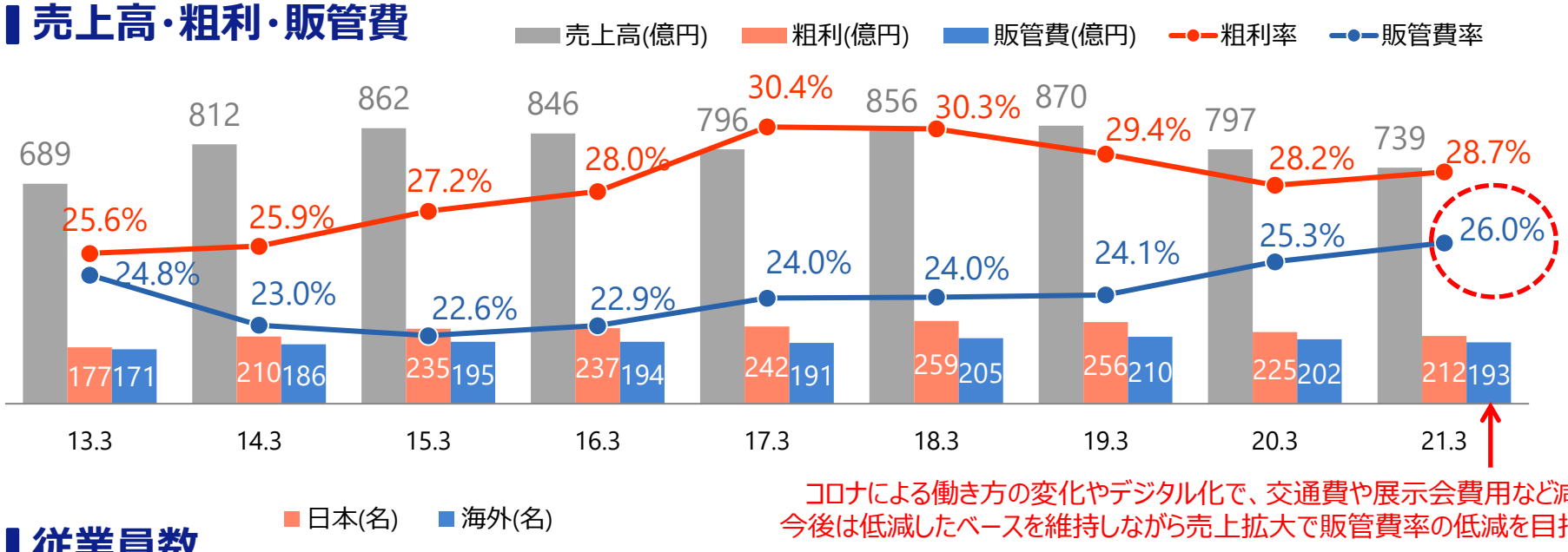
		2020.3期 実績	構成比	前期比	2021.3期 実績	構成比	前期比	2021.3期 直近予想＊	構成比
売上高		79,655	100.0%	▲8.5%	**73,906**	100.0%	▲7.2%	72,500	100.0%
	売上原価	57,184	71.8%	▲6.9%	**52,685**	71.3%	▲7.9%	-	-
	販管費	20,181	25.3%	▲3.7%	**19,251**	26.0%	▲4.6%	-	-
営業利益		2,289	2.9%	▲50.2%	**1,969**	2.7%	▲14.0%	1,500	2.1%
経常利益		2,510	3.2%	▲48.2%	**2,384**	3.2%	▲5.0%	2,000	2.8%
親会社株主に帰属する当期純利益		1,024	1.3%	▲84.0%	**542**	0.7%	▲47.0%	450	0.6%
為替（円/米ドル）	期中平均	108.42		▲1.60	105.43		▲2.99	107.00	
	期末	108.83		▲2.16	110.71		+1.88	107.00	
1株当り配当		10.00円		0.00円	8.00円		▲2.00円	8.00円	
配当性向		80.1%		+67.3pt	121.1%		+41.0pt	147.1%	
ROE		2.2%		▲12.1pt	1.1%		▲1.1pt	1.0%	

注：直近予想欄は、2020年10月22日公表値を記載

© 2021 TAMURA CORPORATION

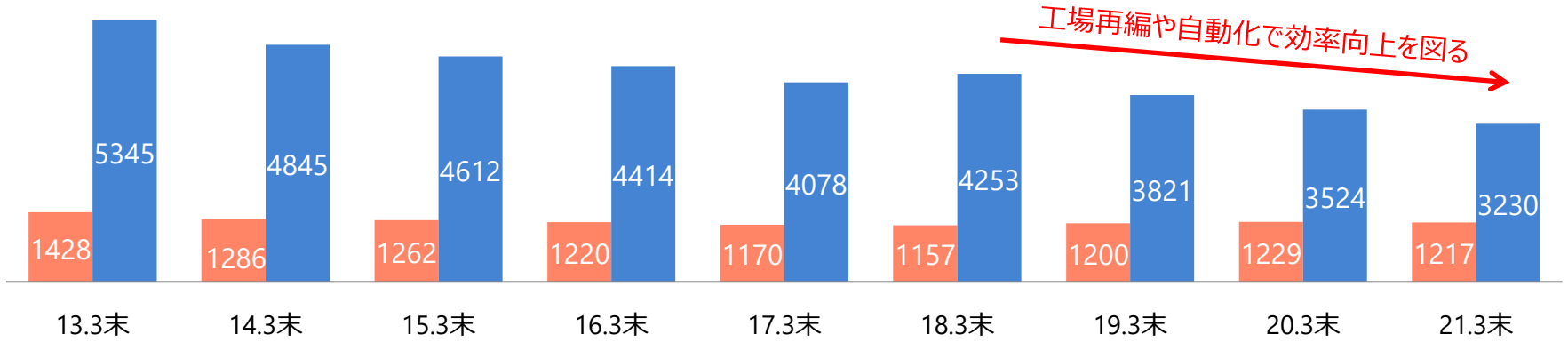
売上高・粗利・販管費・従業員数の推移

売上高・粗利・販管費



コロナによる働き方の変化やデジタル化で、交通費や展示会費用など減少
今後は低減したベースを維持しながら売上拡大で販管費率の低減を目指す

従業員数

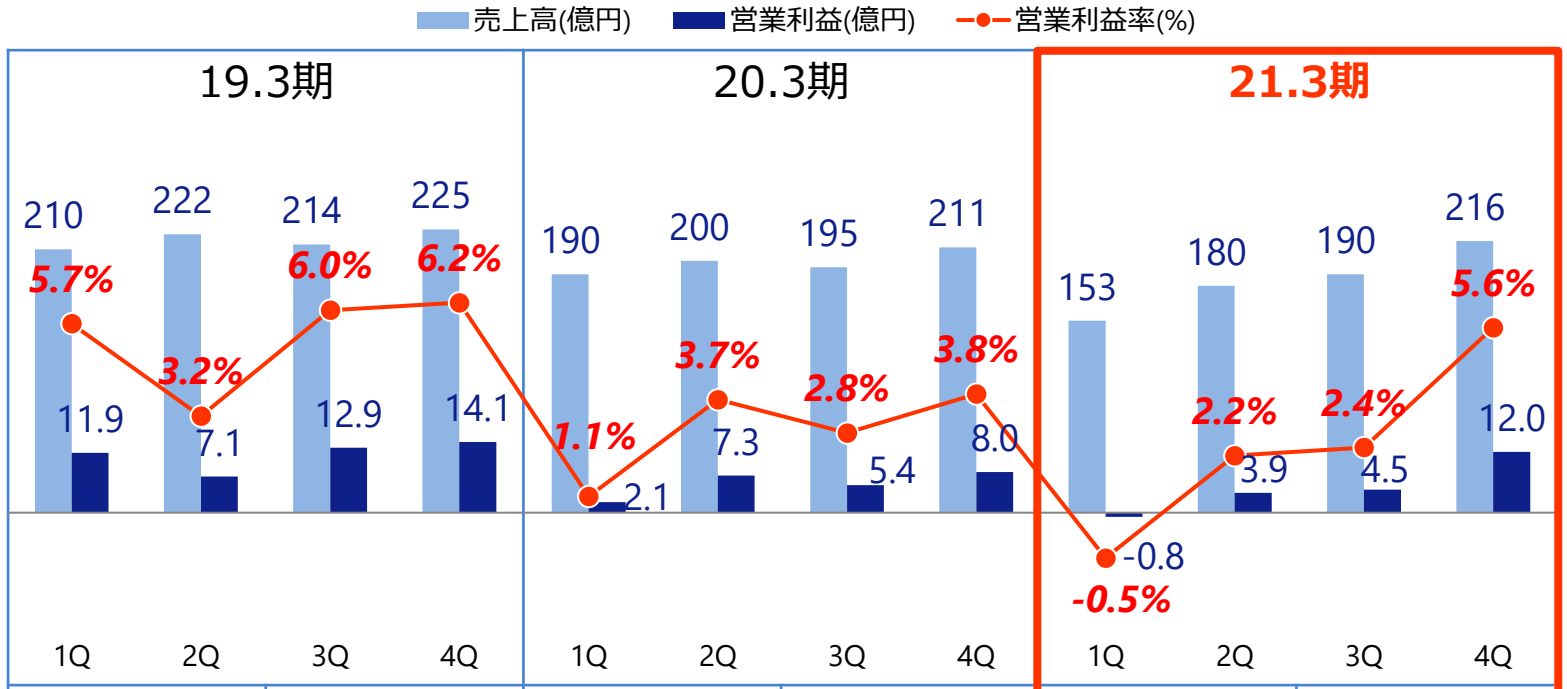


合計 6,773名　2,326 名（34%）減少　合計 4,447名

© 2021 TAMURA CORPORATION

四半期別の売上高・損益

- 1Qは、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、あらゆる分野で売上が急減
- 2Qより中国市場が復調。自動車関連は底を脱し、スマートフォン関連も増加
- 3Q以降も巣ごもり需要を起点とした家電好調が継続。4Qは産機伸長、放送機器が期末集中で売上増加



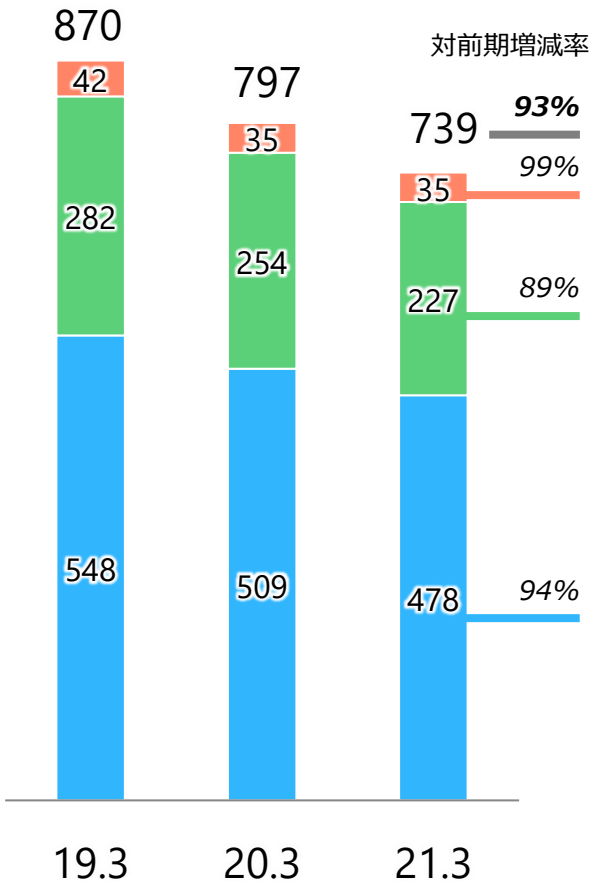
［百万円］	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	43,112	43,896	39,008	40,647	33,325	40,581
営業利益	1,905	2,695	941	1,348	310	1,659
営業利益率	4.4%	6.1%	2.4%	3.3%	0.9%	4.1%

© 2021 TAMURA CORPORATION

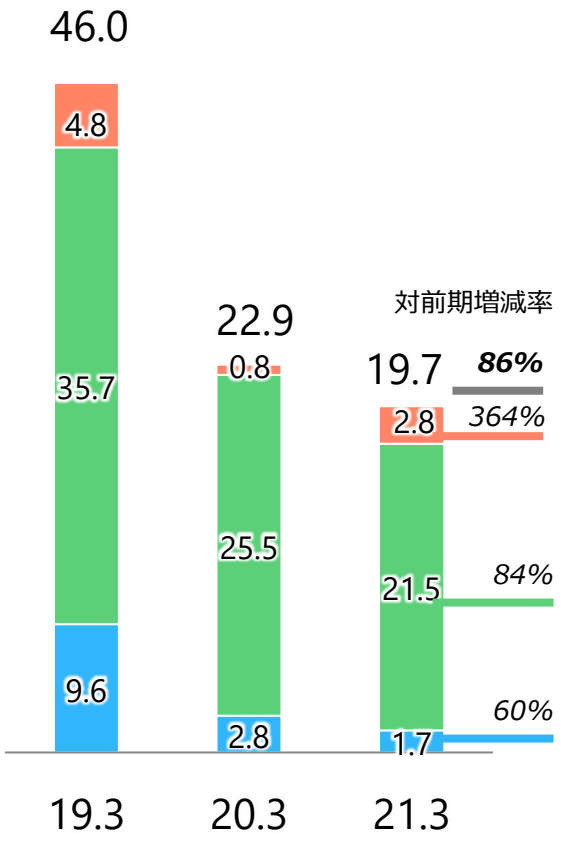
事業部門別の売上高・損益

■電子部品関連事業 ■電子化学実装関連事業 ■情報機器関連事業 ■全社 ［億円］

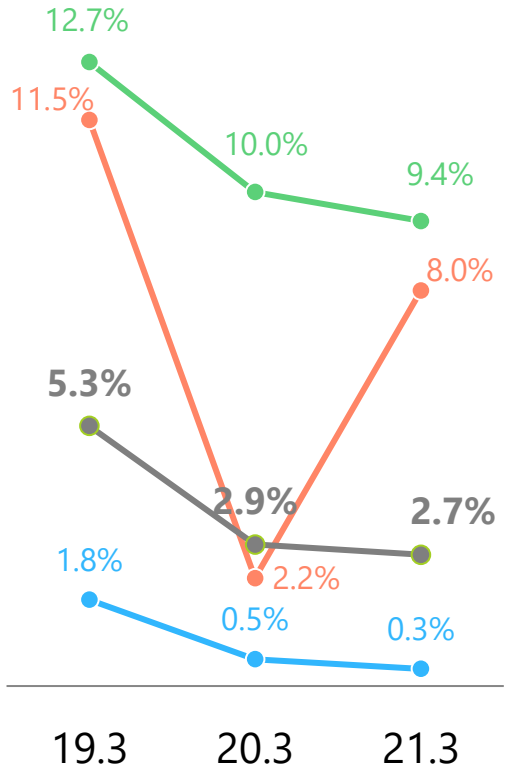
売上高



営業利益



営業利益率

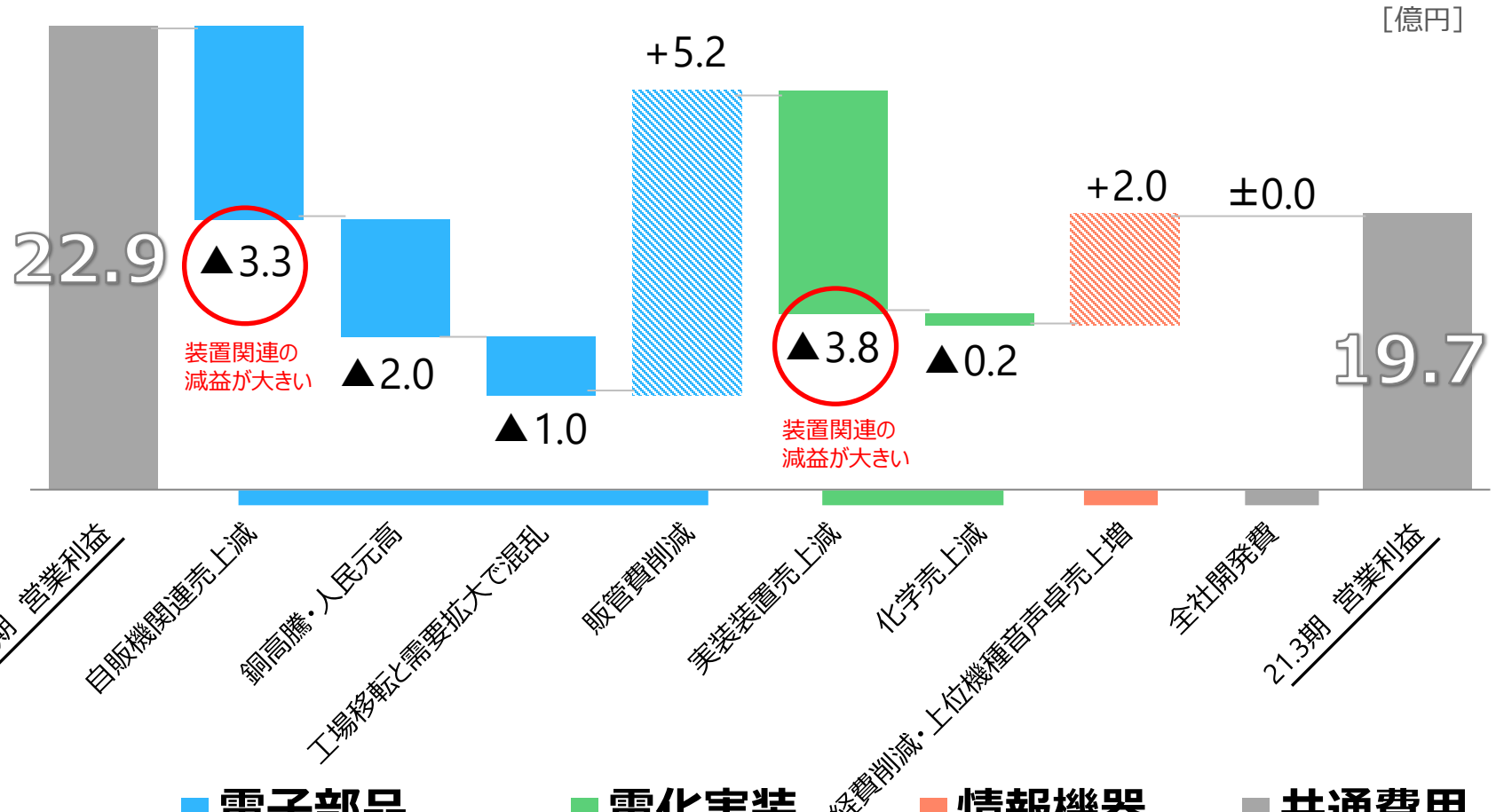


注：連結消去（主に全社未来開発費）により、営業利益の全社の値と、事業部門の合計が一致しません。

© 2021 TAMURA CORPORATION

営業利益増減要因（20.3期・21.3期の比較）

営業利益の増減要因　22.9億円→19.7億円（▲3.2億円）



電子部品
2.8→1.7
(▲1.1)

電化実装
25.5→21.5
(▲4.0)

情報機器
0.8→2.8
(+2.0)

共通費用
▲6.2→▲6.2
(±0.0)

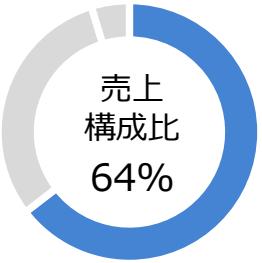
© 2021 TAMURA CORPORATION

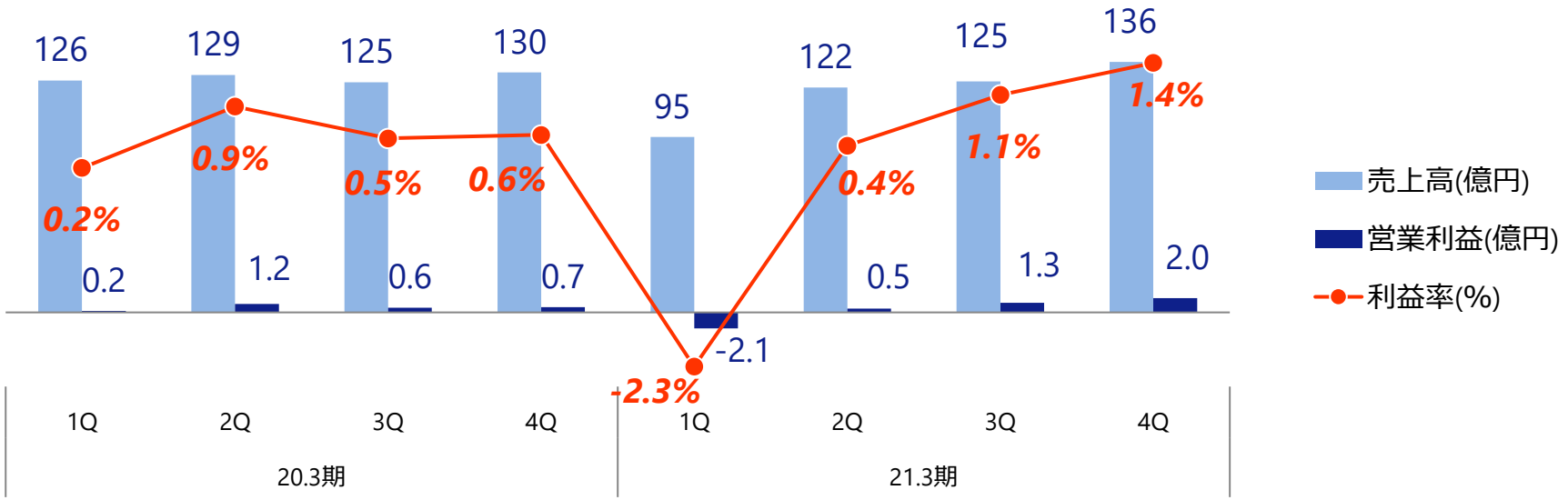
【事業部門別】電子部品関連事業の実績①

- **電動工具用チャージャは年間を通じて好調、期の後半で産業機械向けのトランス・リアクタが伸長**
- **車載用リアクタは年初計画並み。自動販売機向けLED製品は客先の投資抑制で大きく期待に至らず**

［百万円］	20.3期 実績	前期比	21.3期 実績	前期比	21.3期 直近予想＊
売上高	50,871	▲7.2%	**47,751**	▲6.1%	47,100
営業利益	275	▲71.4%	**165**	▲40.0%	200
営業利益率	0.5%	▲1.3pt	**0.3%**	▲0.2pt	0.4%

＊直近予想は、2020年10月22日公表値



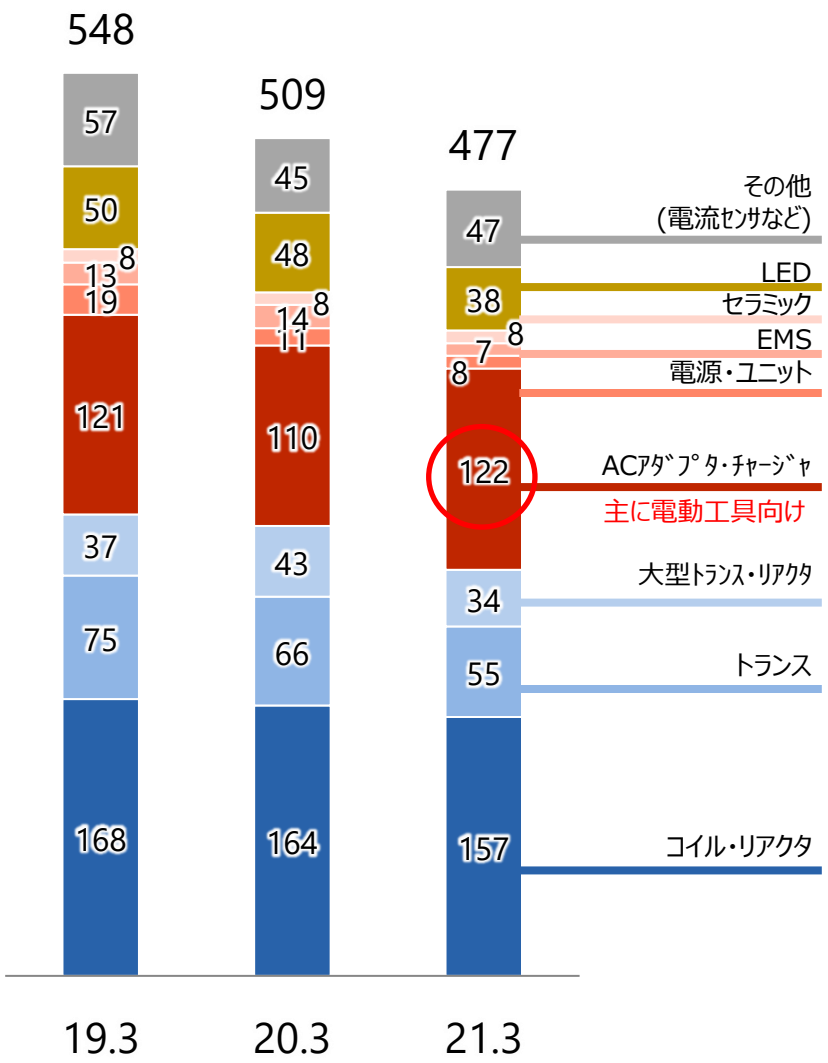


© 2021 TAMURA CORPORATION

【事業部門別】電子部品関連事業の実績②

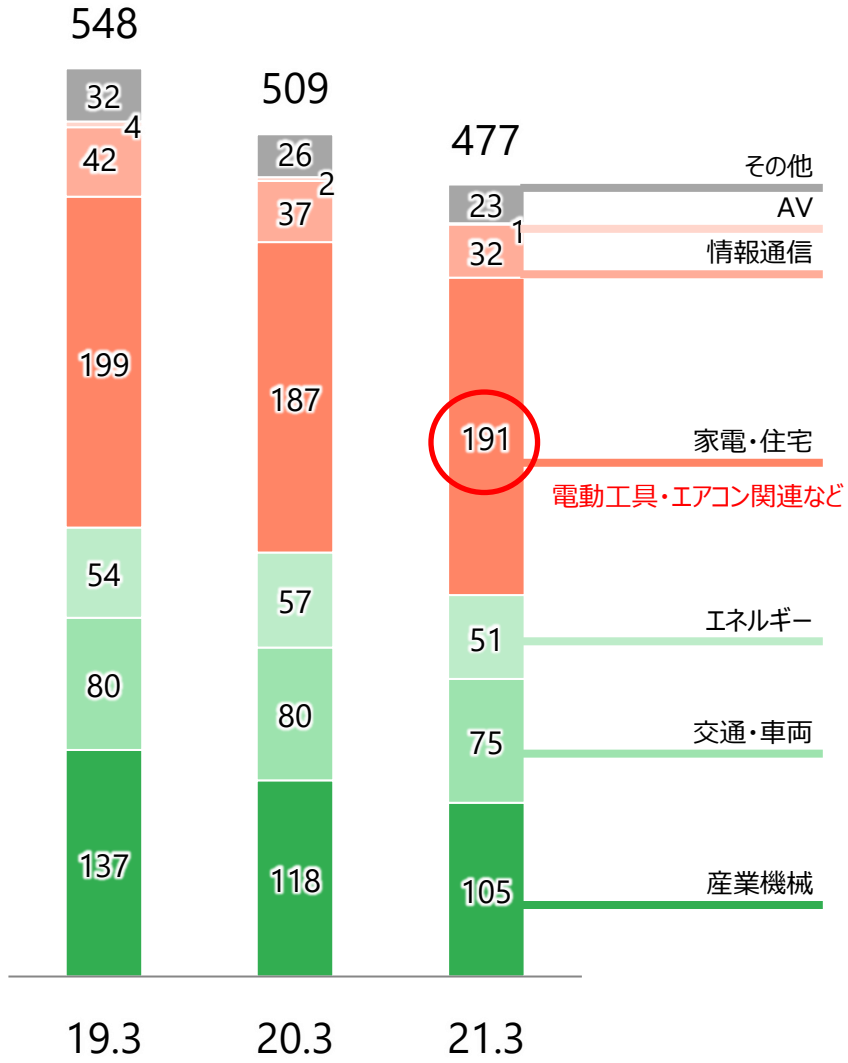
製品別 売上高

［億円］



市場別 売上高

［億円］



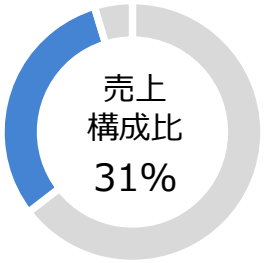
© 2021 TAMURA CORPORATION

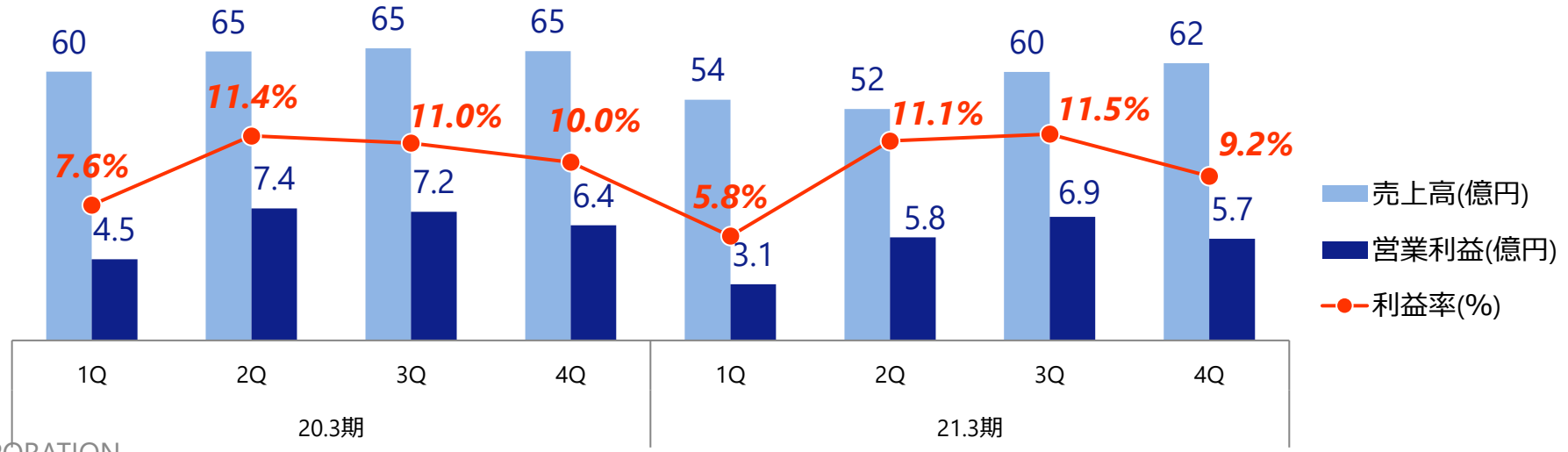
【事業部門別】電子化学実装関連事業の実績①

- ◆ 電子化学材料は中国市場の牽引で回復基調で推移。車載用ソルダーペーストが伸長
- ◆ 実装装置は客先の設備投資が慎重で厳しい状況が続くが、受注は3Qをボトムに徐々に回復

［百万円］	20.3期 実績	前期比	21.3期 実績	前期比	21.3期 直近予想*
売上高	25,440	▲9.7%	**22,743**	▲10.6%	22,200
営業利益	2,553	▲28.5%	**2,148**	▲15.8%	1,800
営業利益率	10.0%	▲2.7pt	**9.4%**	▲0.6pt	8.1%

＊直近予想は、2020年10月22日公表値



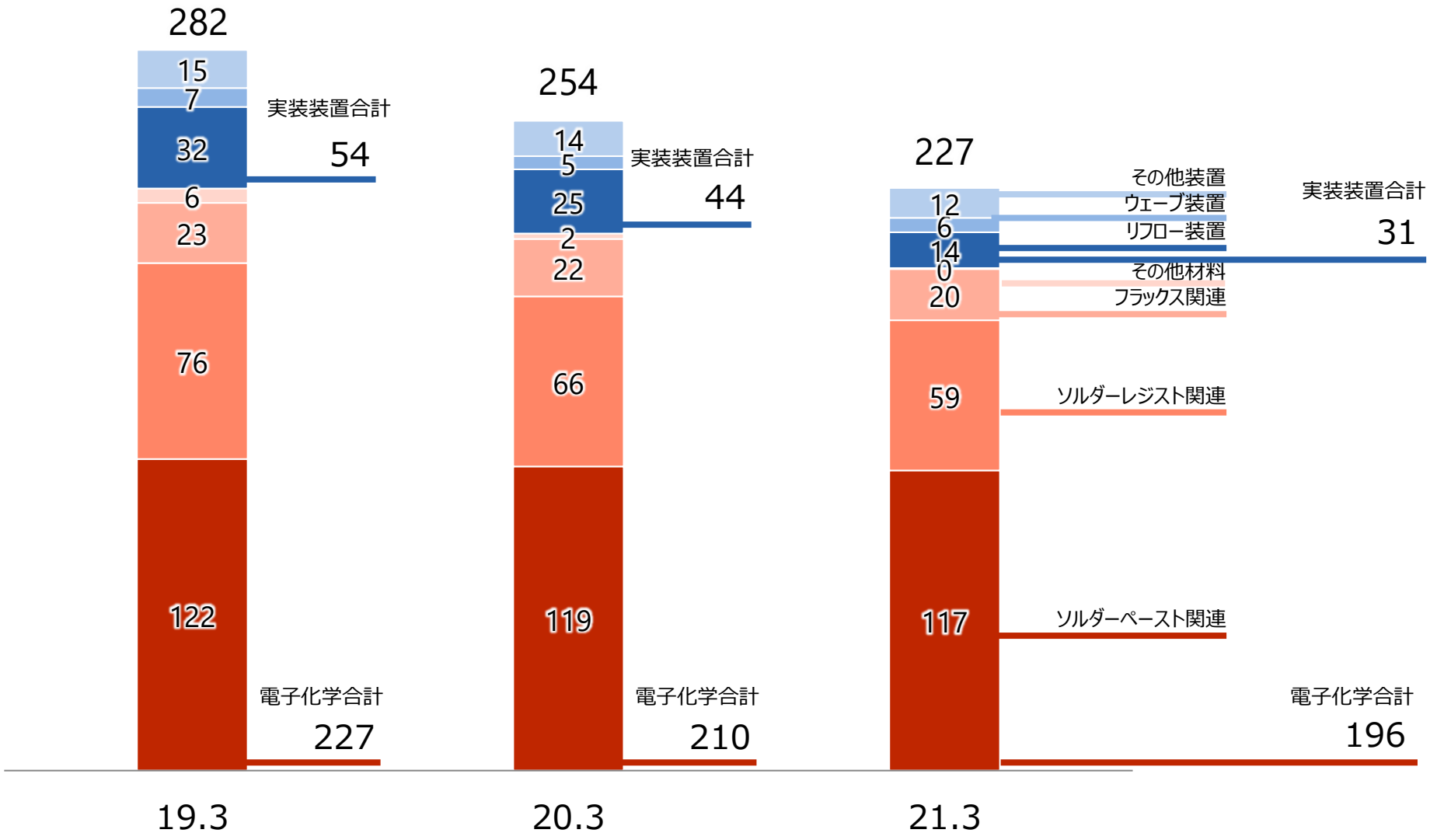


© 2021 TAMURA CORPORATION

【事業部門別】電子化学実装関連事業の実績②

製品別 売上高

［億円］



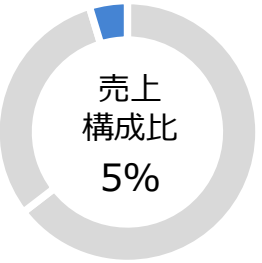
© 2021 TAMURA CORPORATION

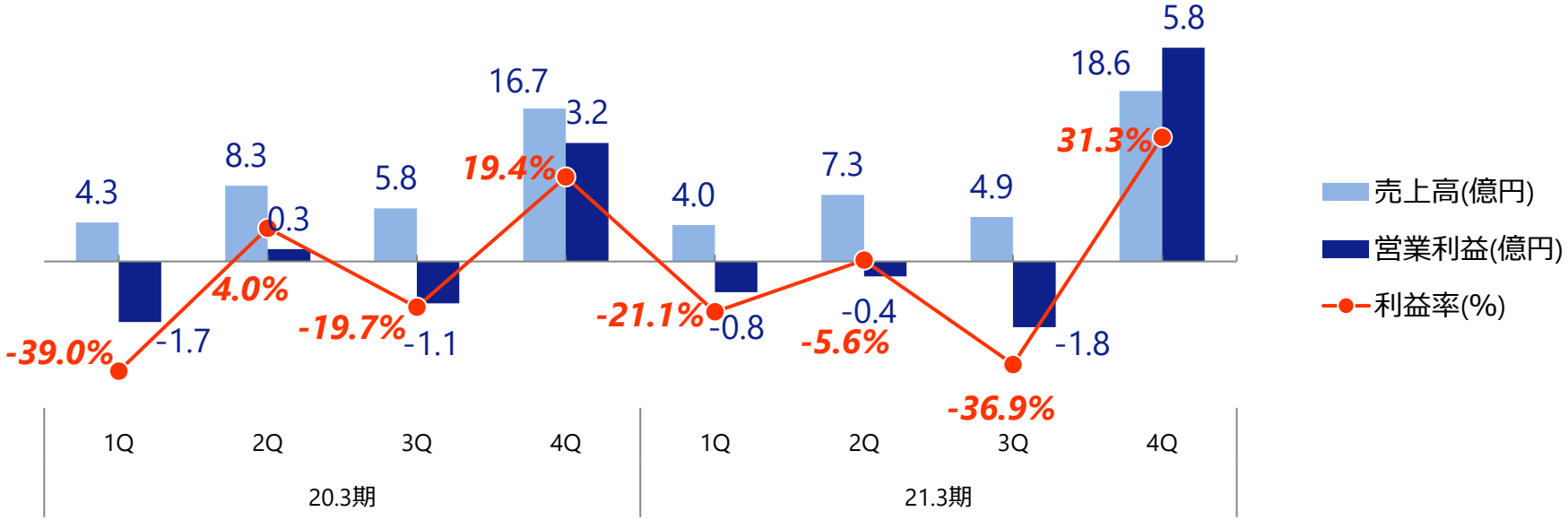
【事業部門別】情報機器関連事業の実績

- 第１四半期から第３四半期は利益を確保するには十分な売上を得られず苦戦
- 第４四半期に予定していた放送設備更新関連の売上が立ち、年間では黒字化

[百万円]	20.3期 実績	前期比	21.3期 実績	前期比	21.3期 直近予想
売上高	3,499	▲16.7%	**3,474**	▲0.7%	3,200
営業利益	76	▲84.1%	**279**	+264.2%	100
営業利益率	2.2%	▲9.3pt	**8.0%**	+5.8pt	3.1%

＊直近予想は、2020年10月22日公表値



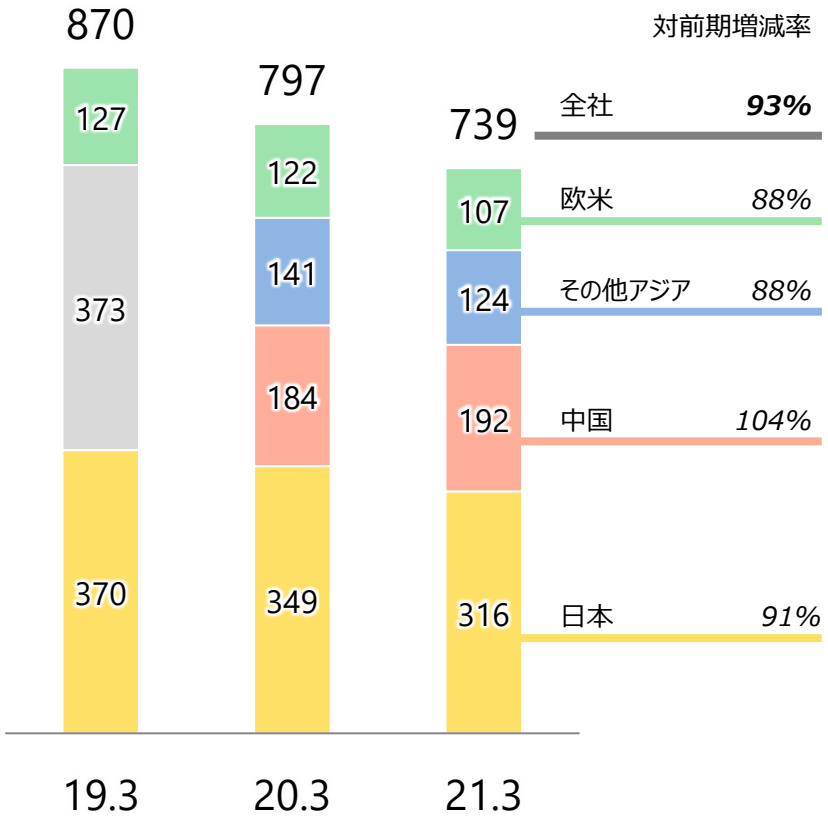


© 2021 TAMURA CORPORATION

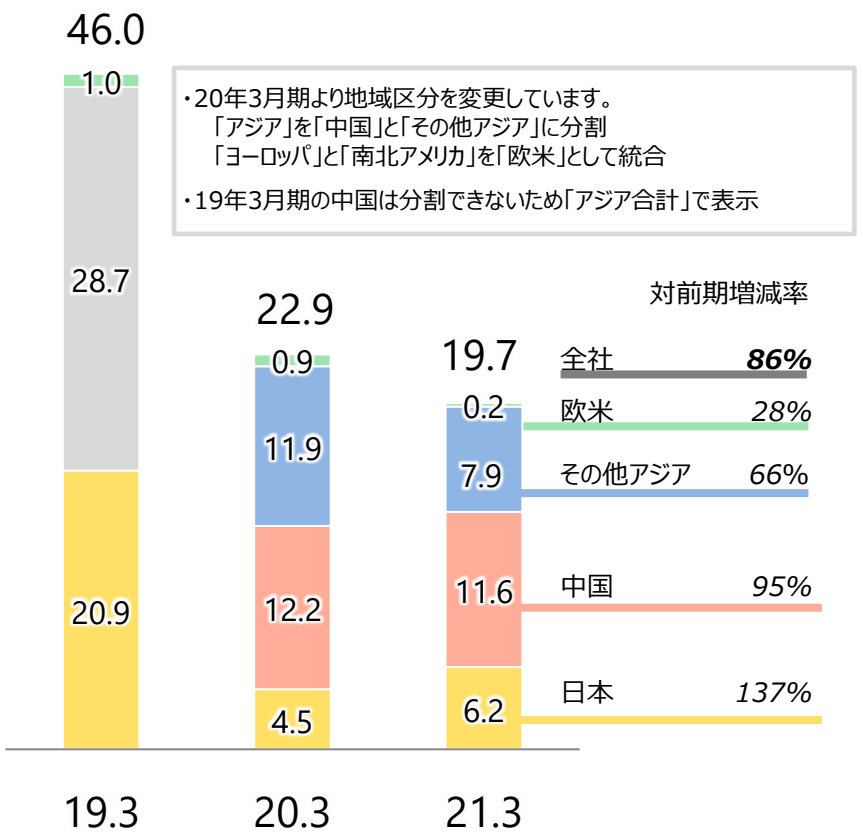
地域別の売上高・損益

- 中国は、2Q以降は前年以上の売上。期の後半で、素材価格高騰と工場移転に伴う稼働悪化が利益を引き下げ
- 日本は、産業機械関連が復調ながら、情報機器関連や自動販売機関連は厳しく、2期連続で低水準

売上高 [億円]



営業利益 [億円]



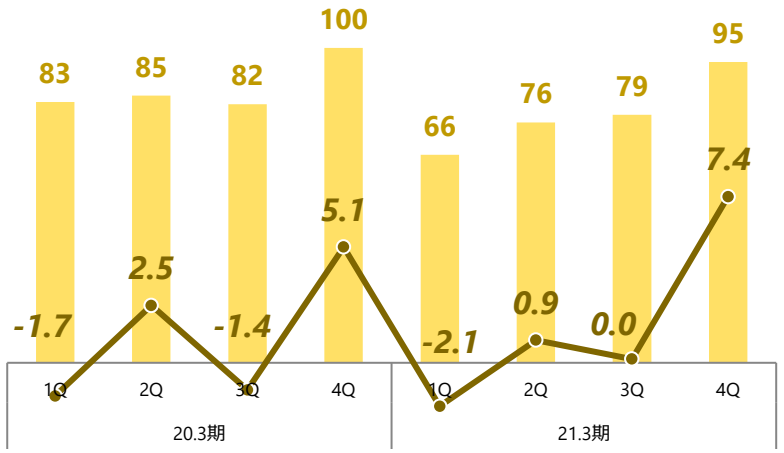
注：連結消去により、営業利益の全社の値と、地域の合計が一致しません。

© 2021 TAMURA CORPORATION

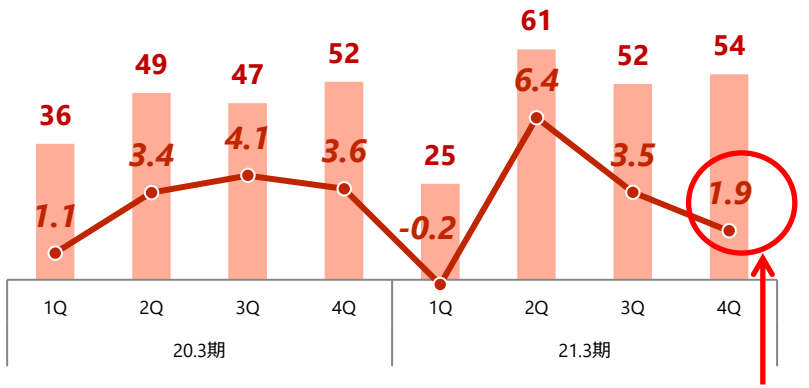
地域別の売上高・損益（四半期推移）

売上高(億円)　営業利益(億円)

日本

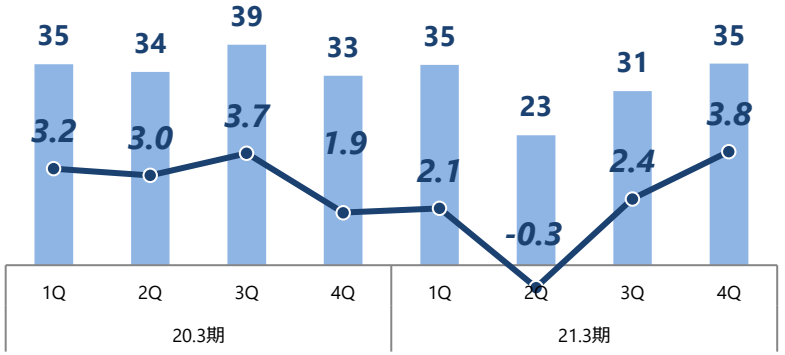


中国

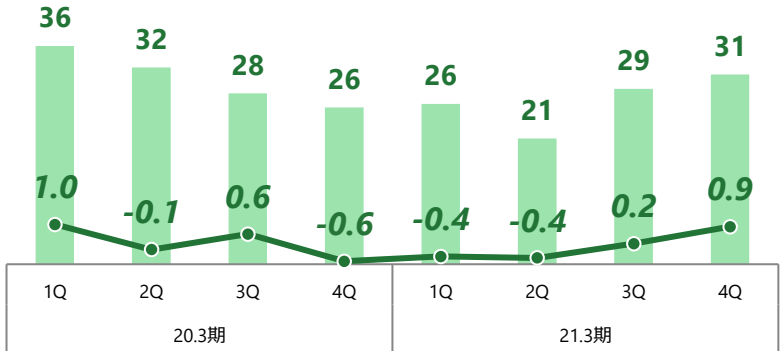


工場移転と需要急増が重なり生産効率が悪化
銅・錫などの素材価格が高騰

その他アジア



欧米



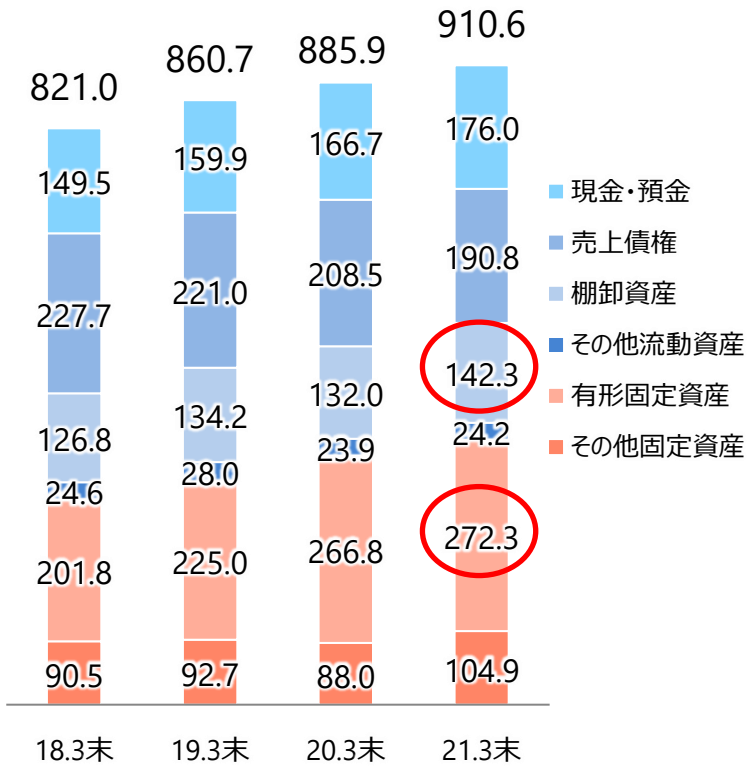
© 2021 TAMURA CORPORATION

貸借対照表

- 資産合計は24億7千万円増加
- 株価上昇に伴う退職給付信託評価増などにより、退職給付に係る資産が17億円増加
- 中国工場の移転・新設に伴う対応として、原材料および貯蔵品の棚卸資産が9億円増加

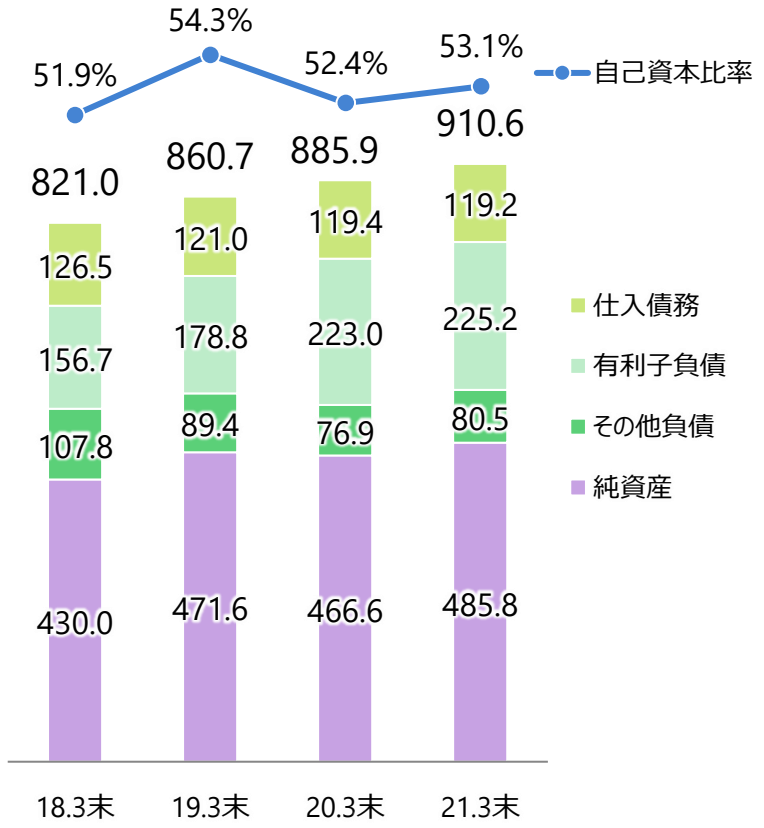
資産

［億円］



負債・純資産

［億円］

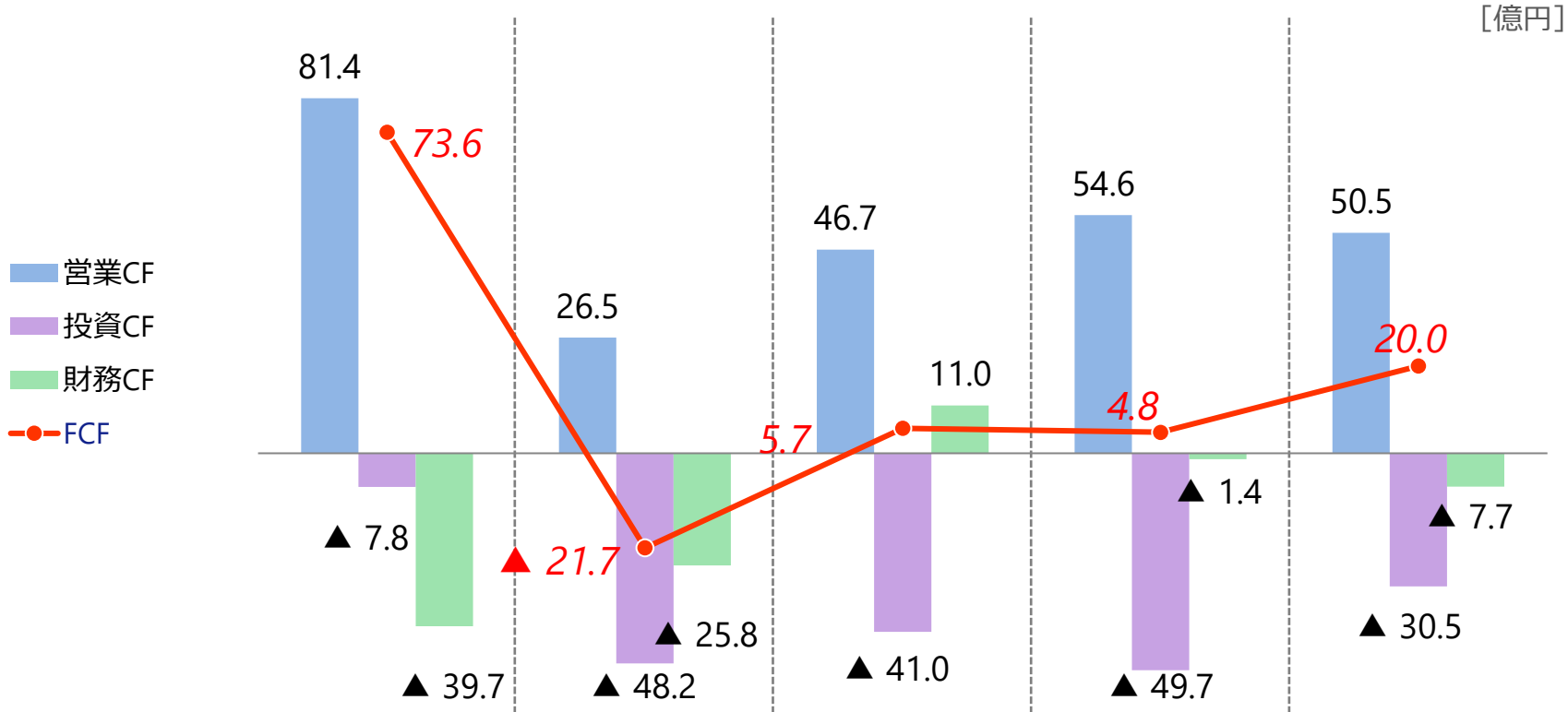


© 2021 TAMURA CORPORATION

キャッシュフロー

- **営業CF：税金等調整当期純利益が減少、たな卸資産の増減額が減少から増加に転じた**
- **投資CF：前期は坂戸事業所建て替えといった臨時的な資金支出あり。今期は投資有価証券売却により獲得増**
- **財務CF：コロナ禍における不測事態に備え、機動的な短期運転資金を確保。短期借入金の純増減額9.9億円**

［億円］



	17.3末	18.3末	19.3末	20.3末	21.3末
キャッシュの増減	42.1	▲46.7	12.4	2.7	10.7
キャッシュの残高	192.7	146.0	158.4	161.1	171.8

© 2021 TAMURA CORPORATION

2. 2022年3月期 通期業績予想

© 2021 TAMURA CORPORATION

損益予想

- 新型コロナウイルス感染症の影響は、2020年下期と同等で年度を通じて継続するとの前提で予想を設定
- 家電や産業機械の好調継続を見込む。上期は素材高が影響するが、下期は価格転嫁で正常化を想定
- 収益認識基準の適用により、従来基準と比較すると売上高が約27億円減少

［百万円］

	2021.3期 実績	構成比	前期比	2022.3期 予想	構成比	前期比
売上高	73,906	100.0%	▲7.2%	**86,000**	100.0%	+16.4%
営業利益	1,969	2.7%	▲14.0%	**3,400**	4.0%	+72.6%
経常利益	2,384	3.2%	▲5.0%	**3,400**	4.0%	+42.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	542	0.7%	▲47.0%	**2,200**	2.6%	+305.4%

為替 (円/米ドル)	期中平均	105.43	▲2.99	105.00	▲0.43
	期末	110.71	+1.88	105.00	▲5.71

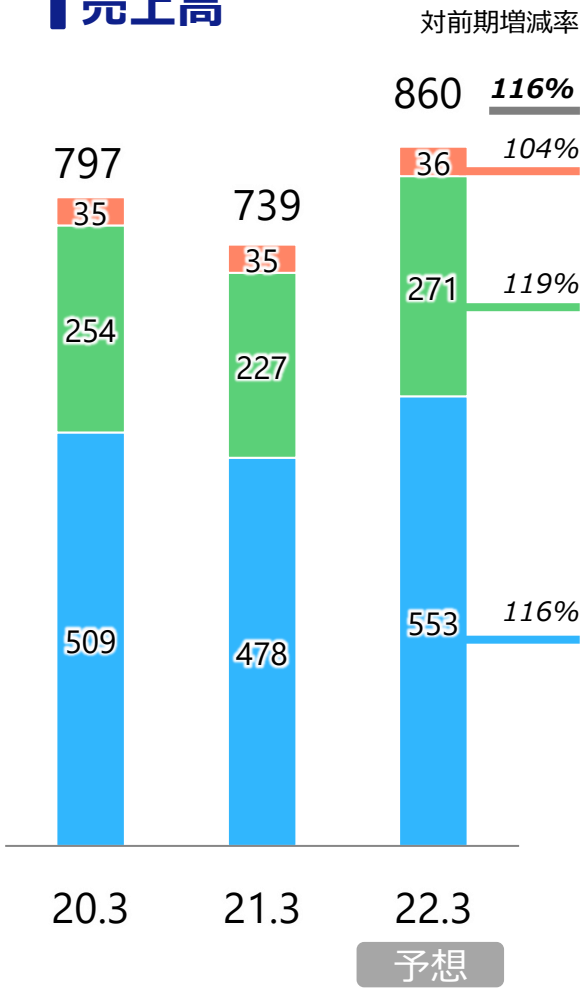
1株当り配当	8.00円	▲2.00円	10.00円	+2.00円
配当性向	121.1%	+41.0pt	37.3%	▲83.8pt
ROE	1.1%	▲1.1pt	4.5%	+3.4pt

© 2021 TAMURA CORPORATION

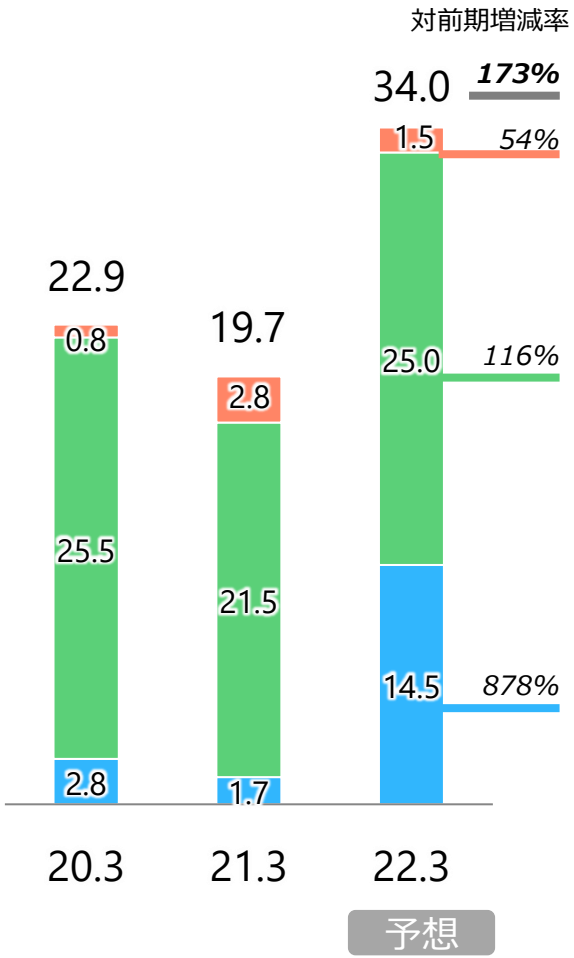
事業部門別の売上高・損益見通し

■電子部品関連事業 ■電子化学実装関連事業 ■情報機器関連事業 ■全社 ［億円］

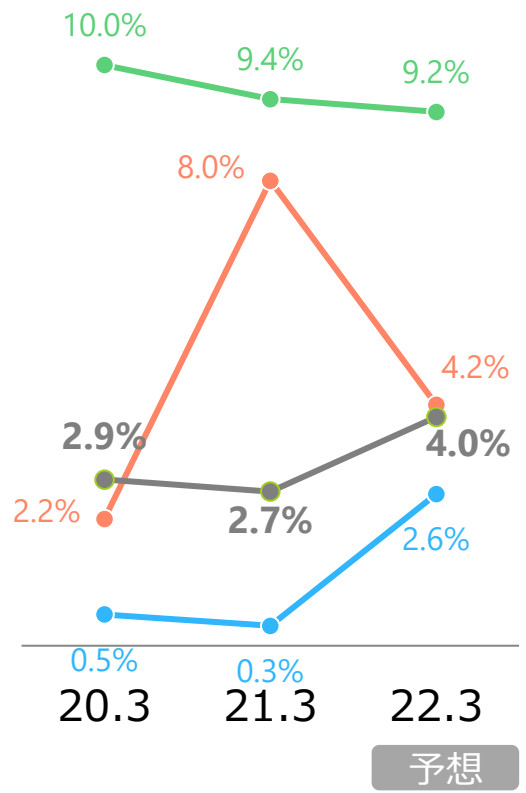
売上高



営業利益



営業利益率

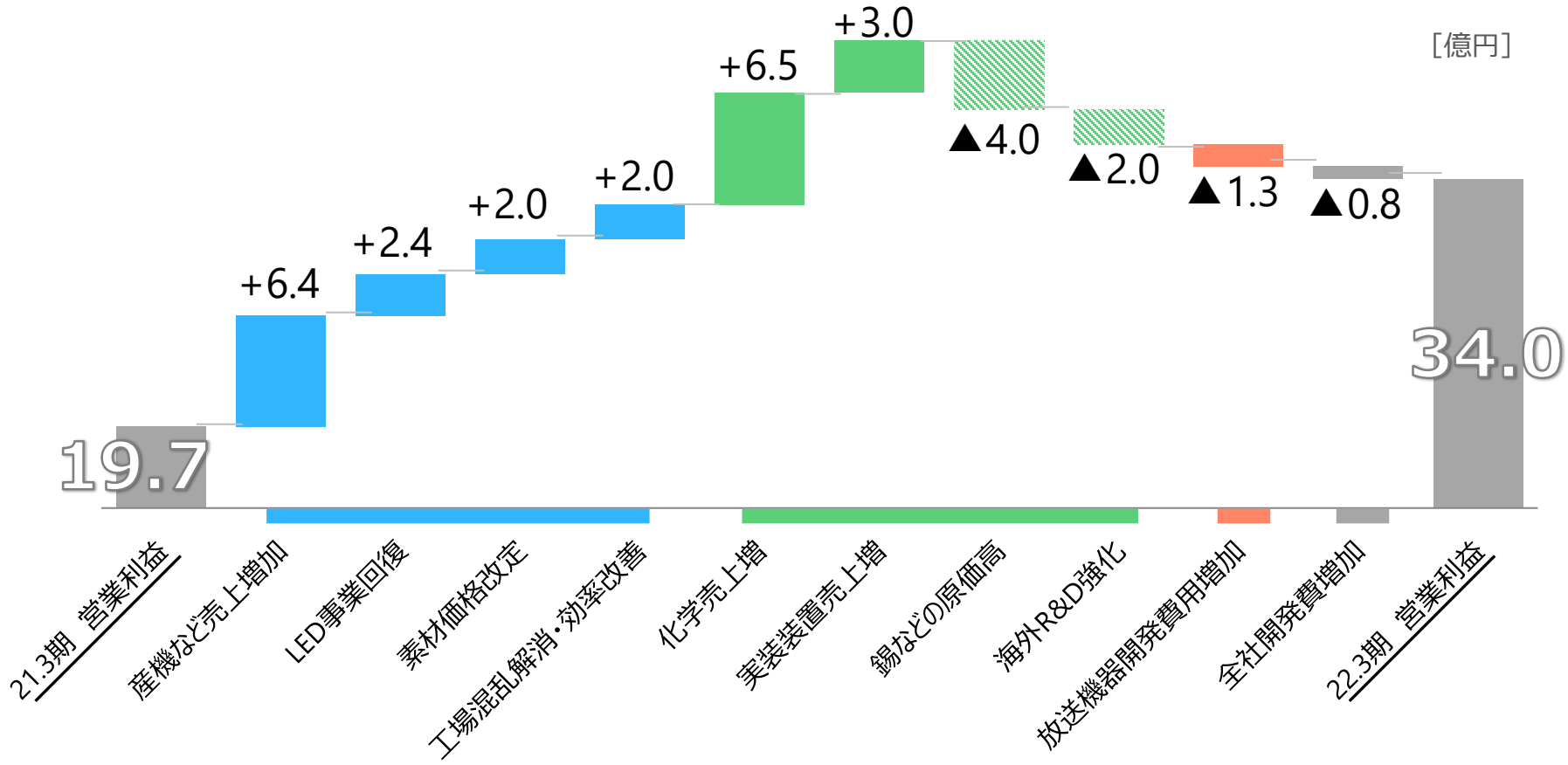


注：連結消去（主に全社未来開発費）により、営業利益の全社の値と、事業部門の合計が一致しません。

© 2021 TAMURA CORPORATION

営業利益増減要因（21.3期・22.3期の比較）

営業利益の増減要因　19.7億円→34.0億円（+14.3億円）



電子部品
1.7→14.5
(+12.8)

電化実装
21.5→25.0
(+3.5)

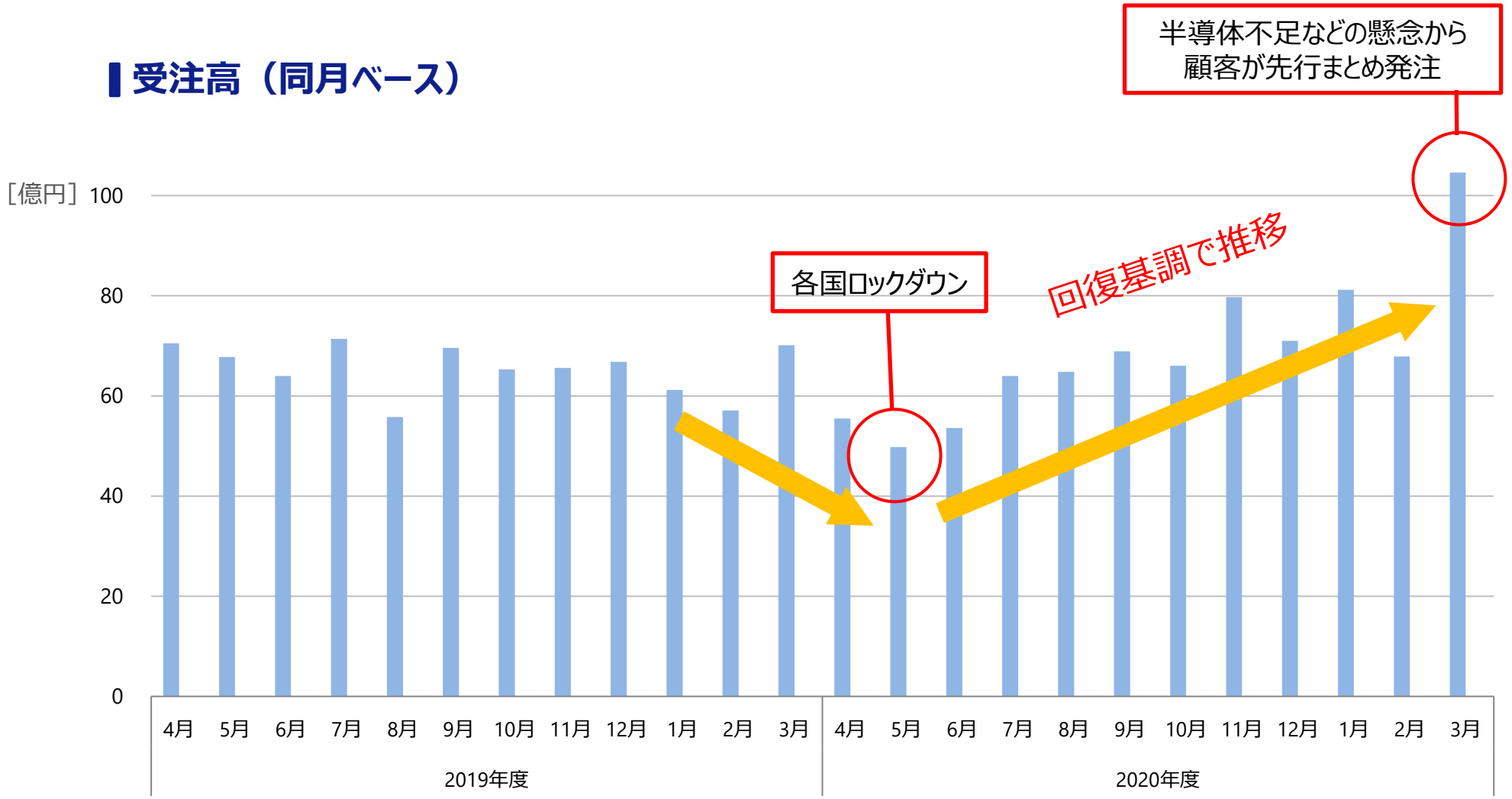
情報機器
2.8→1.5
(▲1.3)

共通費用
▲6.2→▲7.0
(▲0.8)

© 2021 TAMURA CORPORATION

月次受注推移

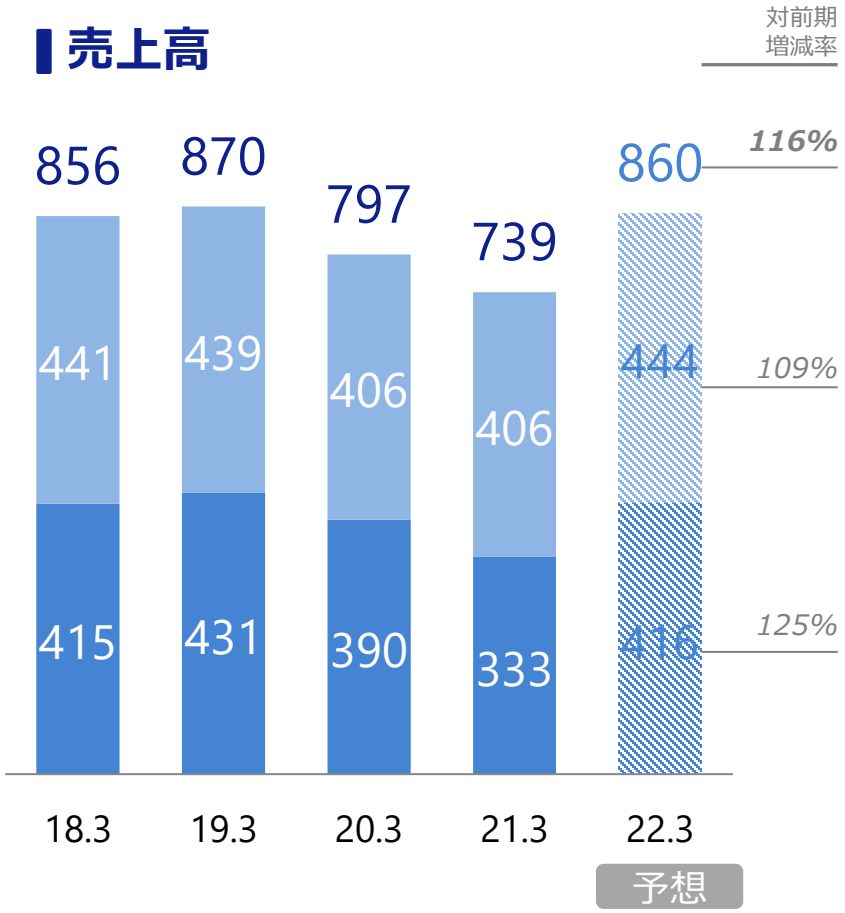
▌受注高（同月ベース）

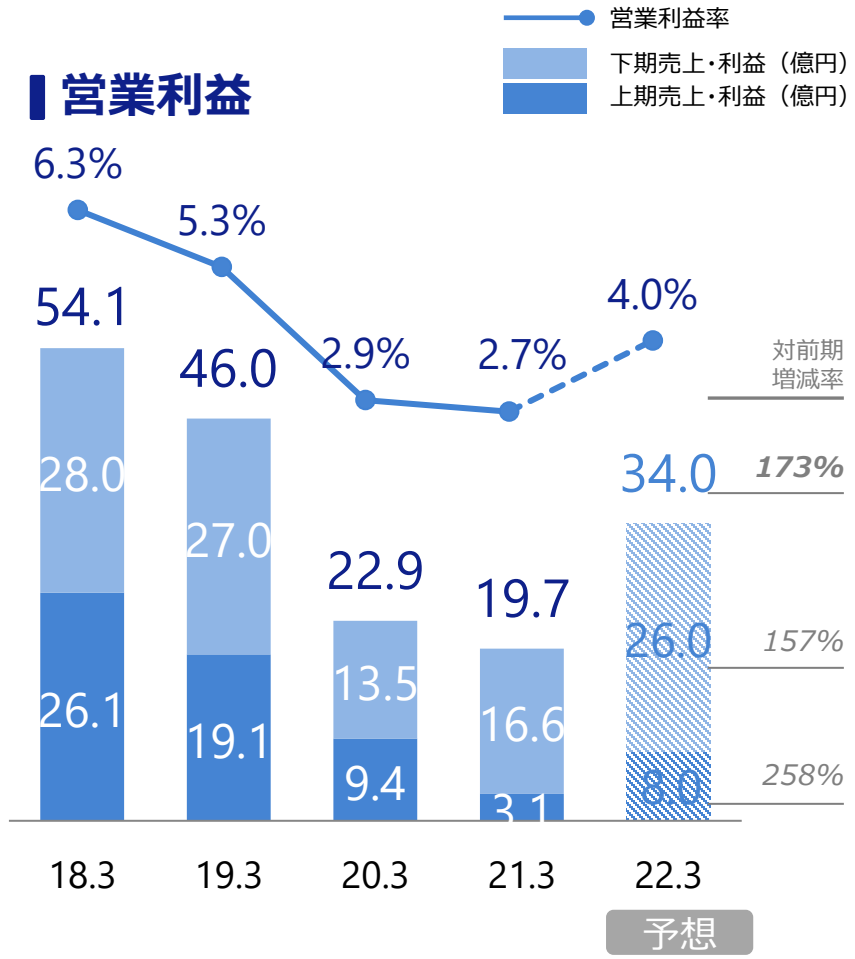


© 2021 TAMURA CORPORATION

損益予想（半期推移）

- 売上は回復基調での推移を見込むが、上期は銅などの素材価格の高騰により利益は低水準
- 下期は相場連動による素材価格改定の効果や、放送機器の売上集中で増益を見込む



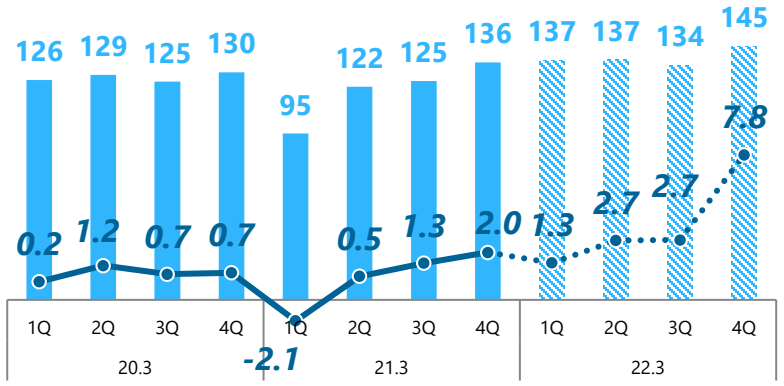


© 2021 TAMURA CORPORATION

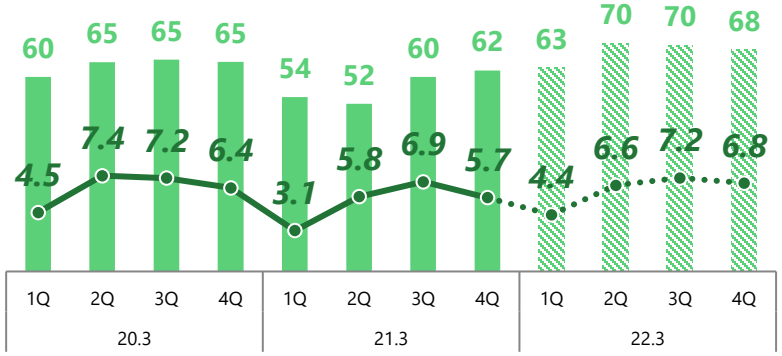
事業部門別の売上高・損益（四半期推移）

売上高(億円)　営業利益(億円)

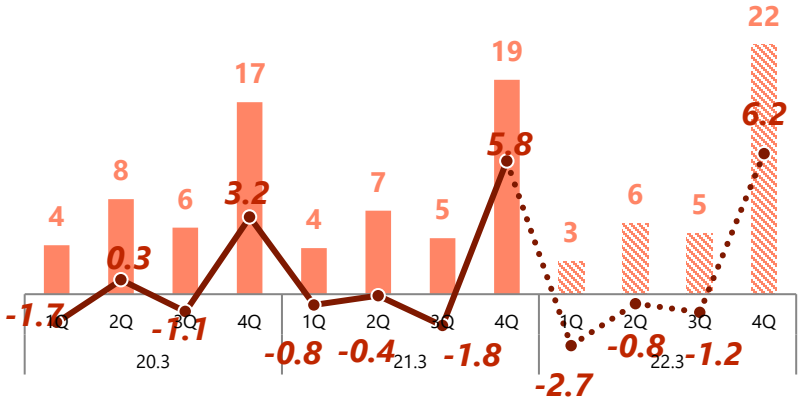
電子部品



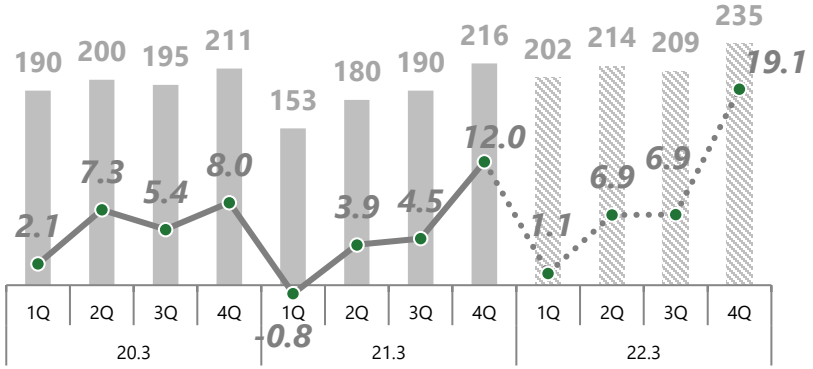
電子化学実装



情報機器



全社

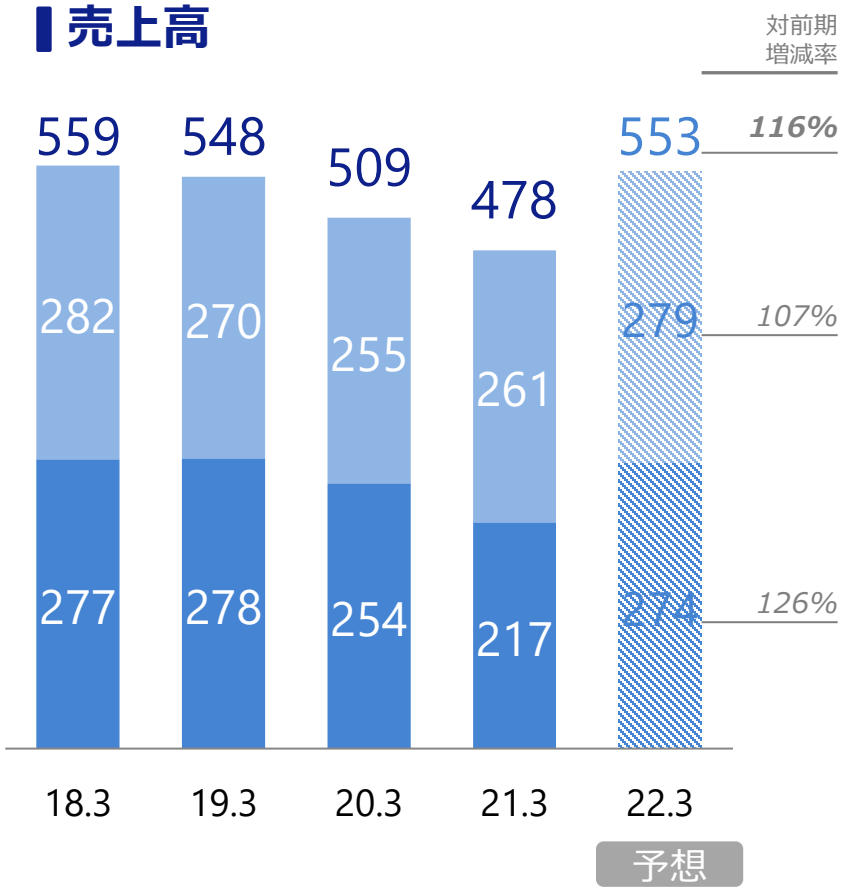


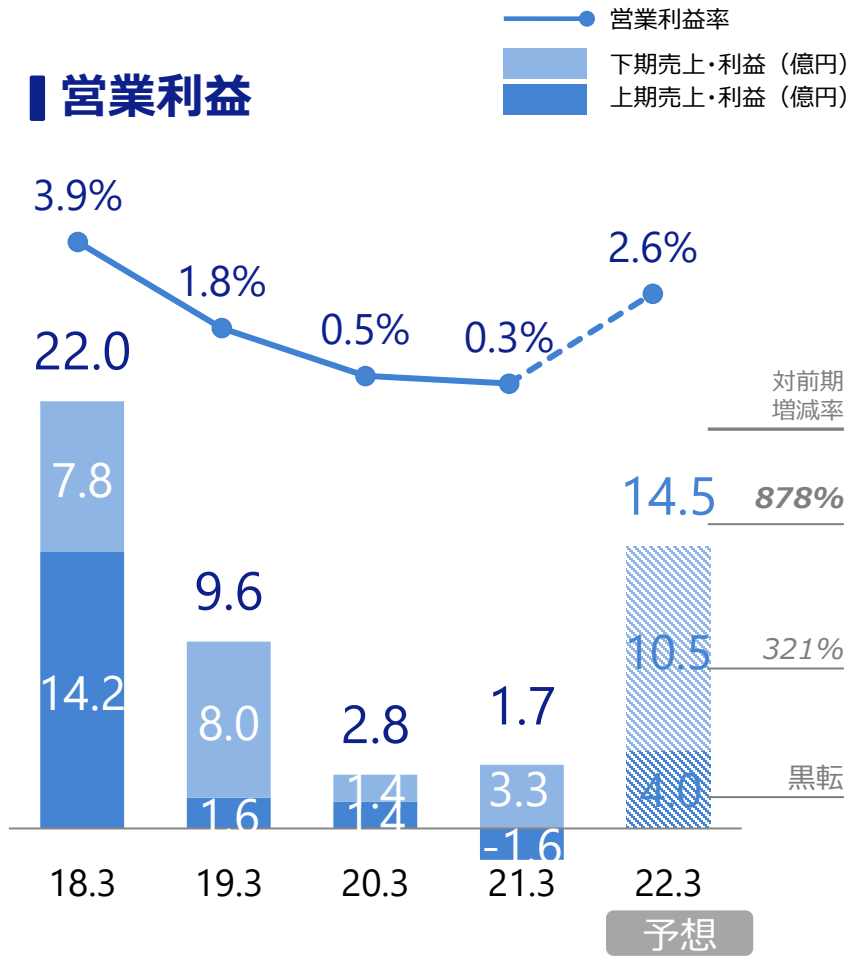
注：　放送機器の売上は期末（2Q･4Q）に集中する傾向あり

© 2021 TAMURA CORPORATION

【事業部門別】電子部品関連事業の見通し①

- 電動工具向けチャージャや、産業機械向けトランス・リアクタで高水準の需要継続を見込む
- 上期は銅価格の高騰と、中国工場の稼働悪化によるコスト増が継続するが、下期には解消して増益



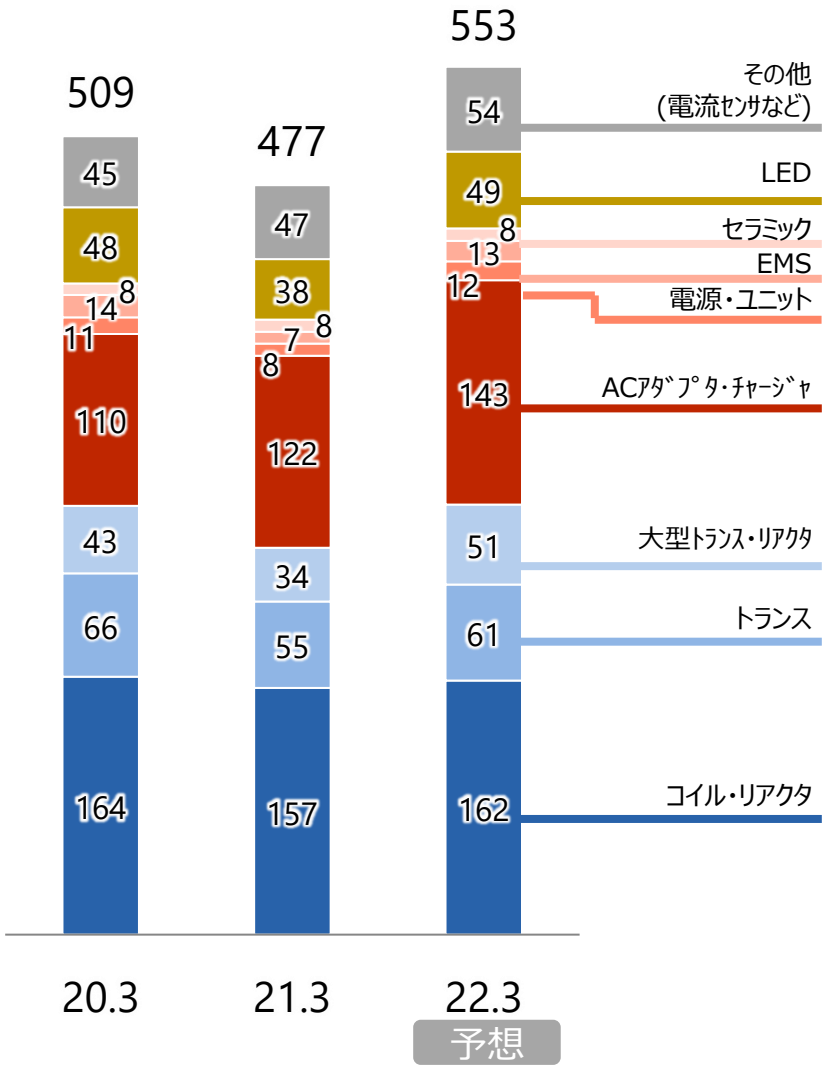


© 2021 TAMURA CORPORATION

【事業部門別】電子部品関連事業の見通し②

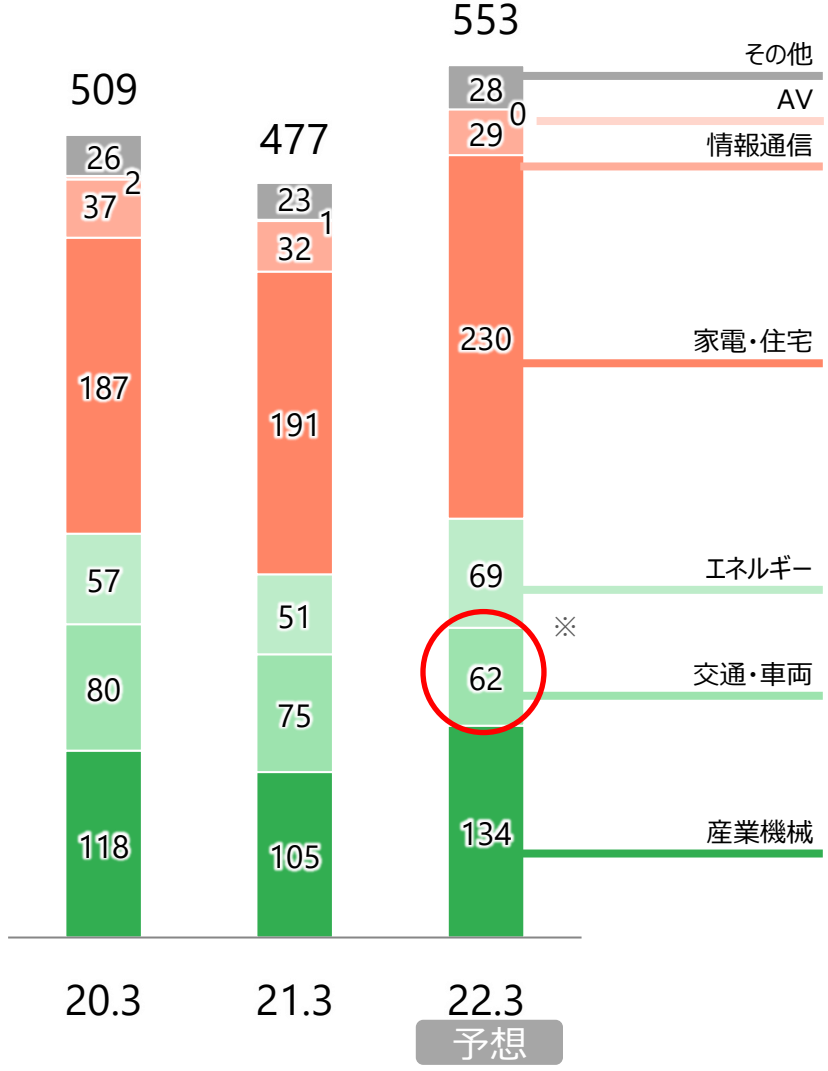
製品別 売上高

［億円］



市場別 売上高

［億円］

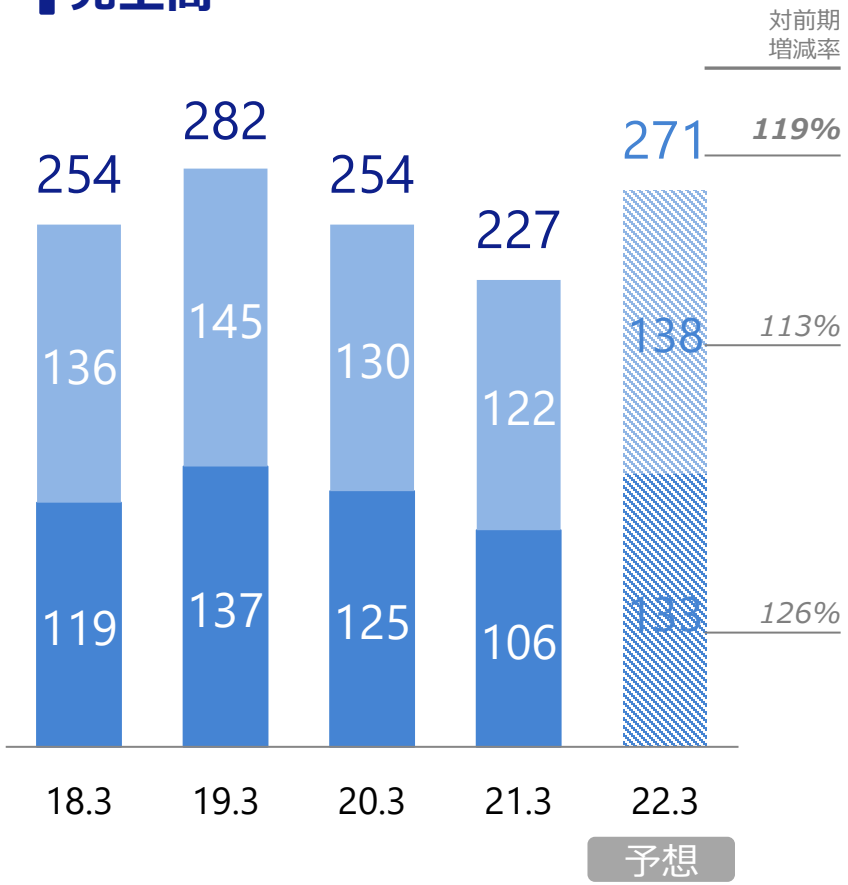


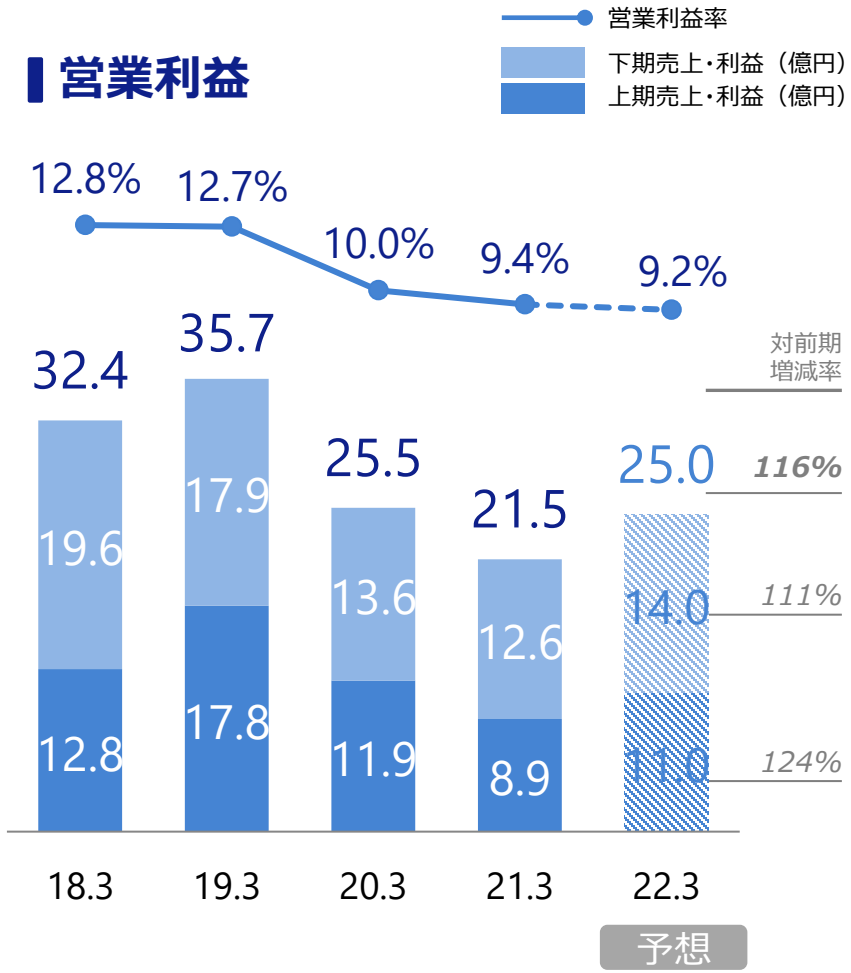
© 2021 TAMURA CORPORATION

※交通・車両の売上高は、2022年3月期より収益認識基準の適用により、有償支給材料売上分が除かれて縮小（約27億円）

【事業部門別】電子化学実装関連事業の見通し①

- 電子化学材料は顧客の年間を通じた生産回復で増収を見込むが、素材価格高騰で上期利益はやや厳しい
- リフロー装置は日系車載メーカー向けを中心に、緩やかな回復を予想



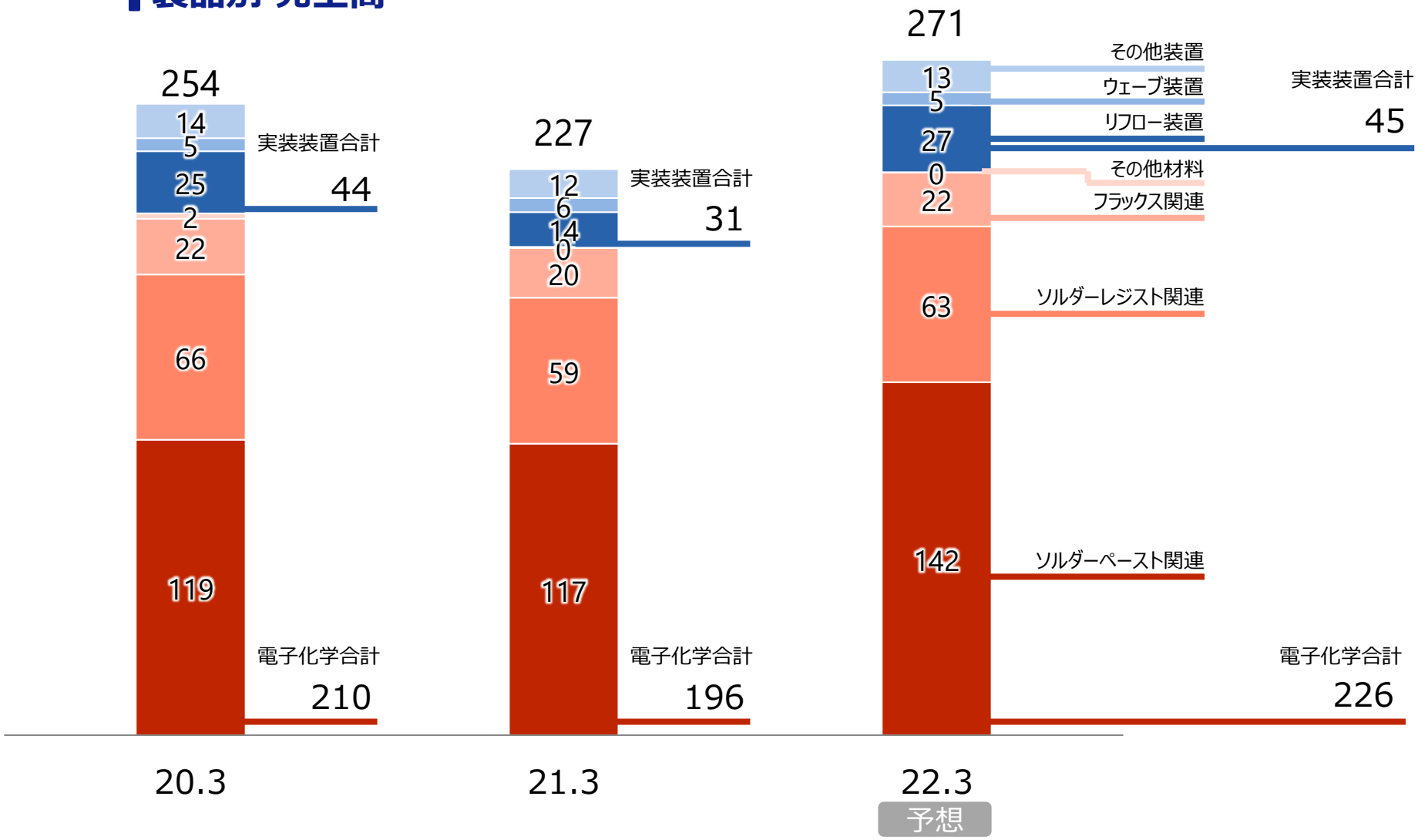


© 2021 TAMURA CORPORATION

【事業部門別】電子化学実装関連事業の見通し②

［億円］

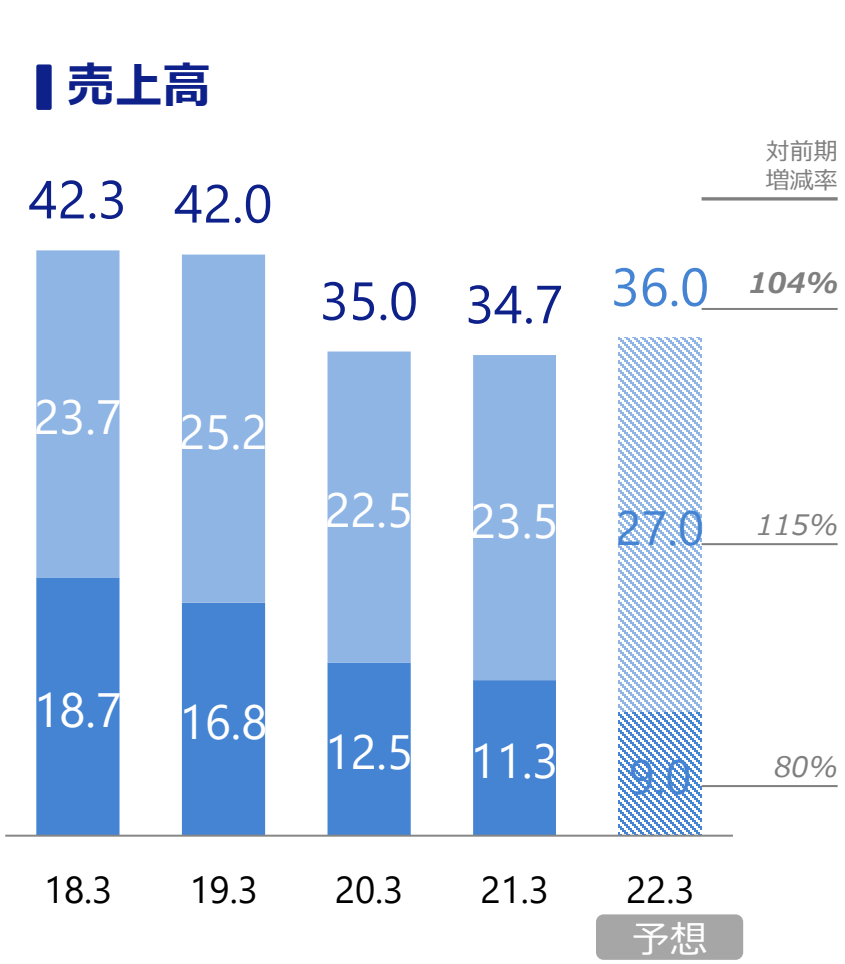
製品別 売上高

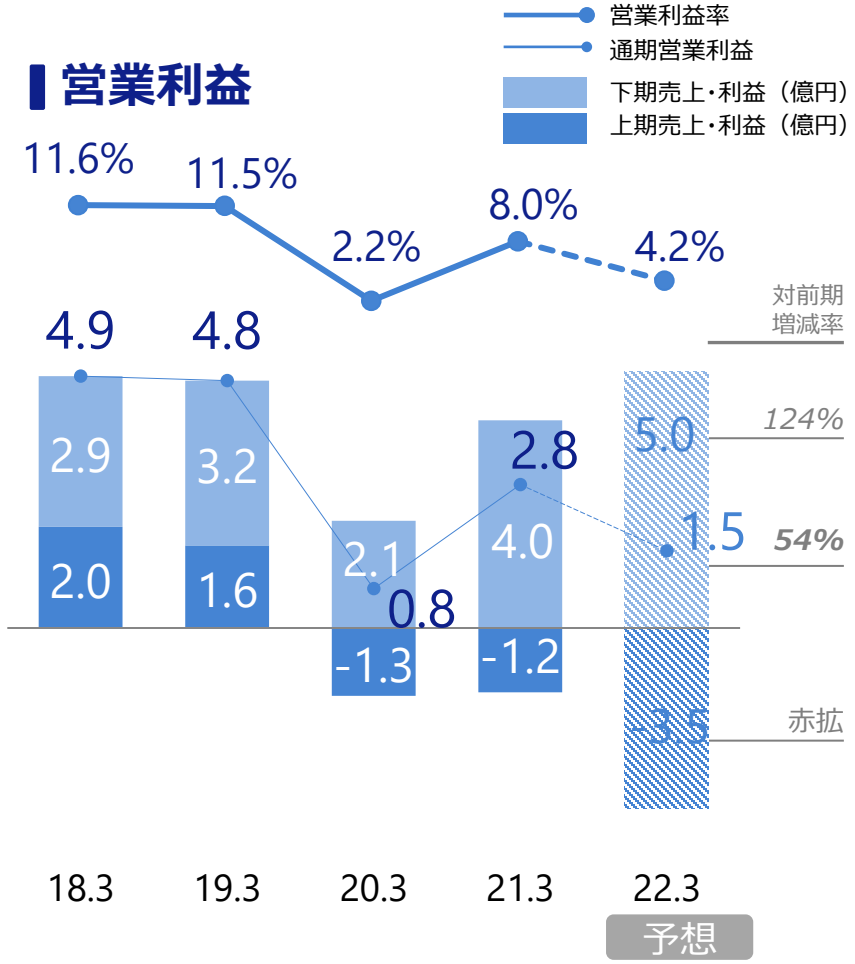


© 2021 TAMURA CORPORATION

【事業部門別】情報機器関連事業の見通し

- 放送局向けの売上は期末に集中すると共に、次世代製品の開発費用を見込み上期の利益は厳しい
- 下期はスプリアス対応※による無線機器の売上増加や、新規セキュリティ案件の売上開始を見込む





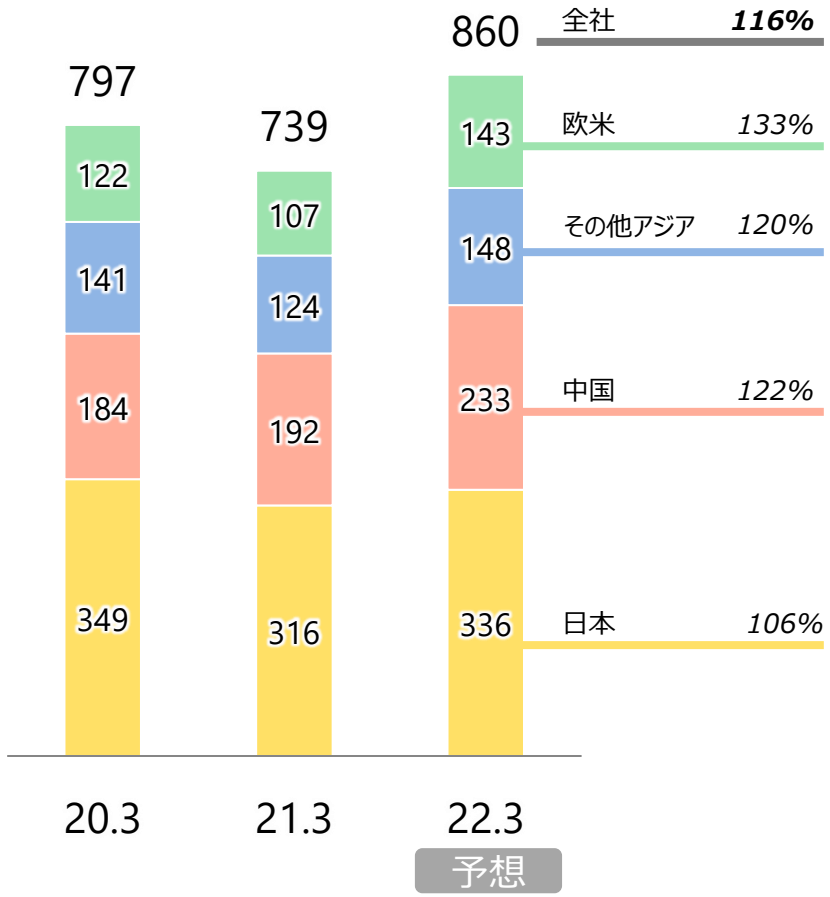
© 2021 TAMURA CORPORATION

※ 不要電波の低減による電波利用環境の向上を目的とした規則改正により、旧スプリアス規格の無線設備の使用期限が2022年11月30日までとなっています。

地域別の売上高・損益

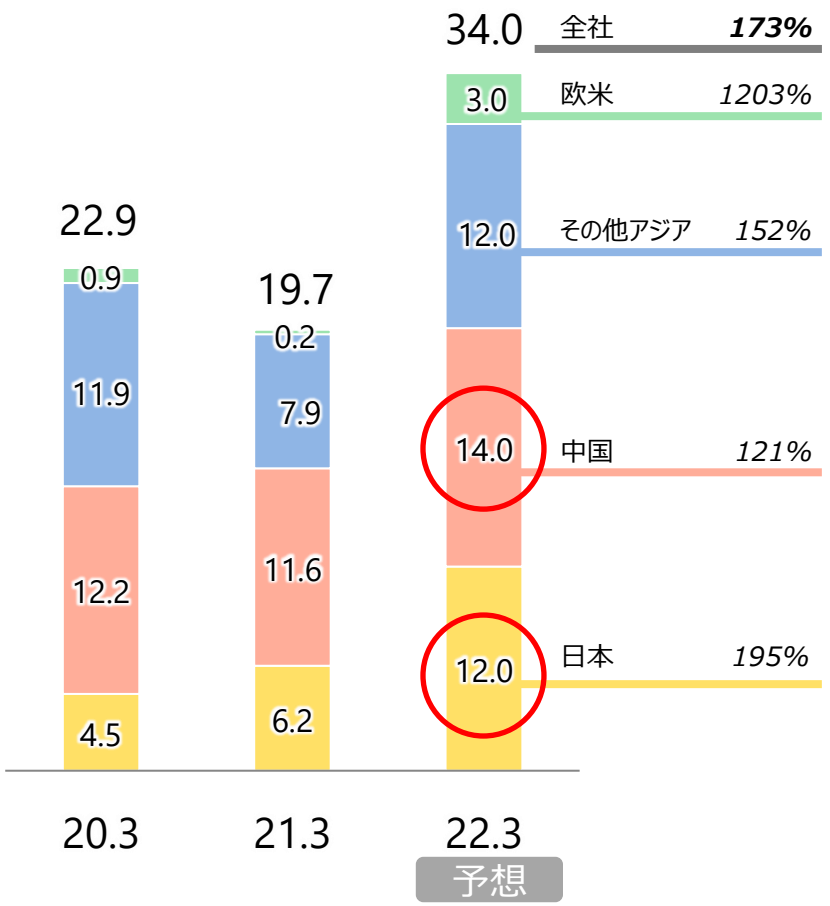
- 日本は、産業機械関連の復調で利益拡大。情報機器やLED関連は低水準が継続
- 中国は、素材価格の上昇や、急激な需要拡大に伴う生産効率悪化の影響が上期は継続

売上高



営業利益

［億円］



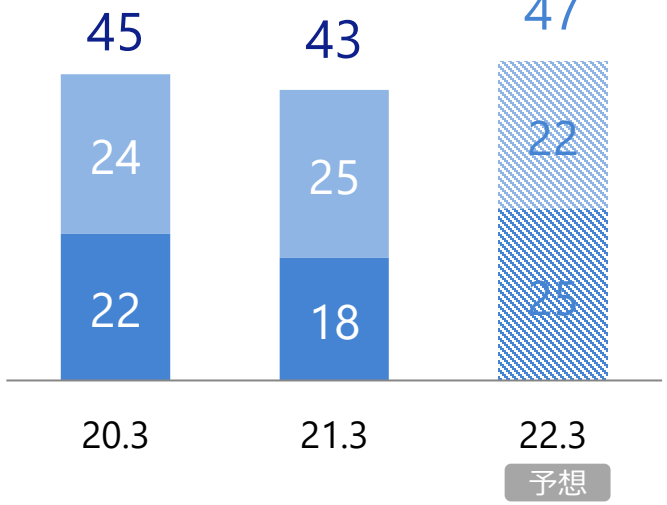
注：連結消去により、営業利益の全社の値と、地域の合計が一致しません。

© 2021 TAMURA CORPORATION

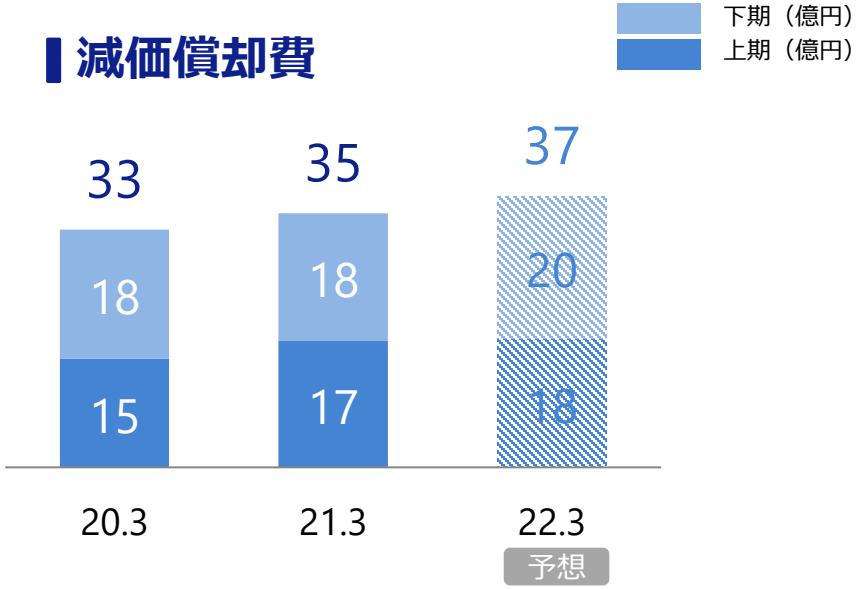
設備投資・減価償却費・研究開発投資

設備投資

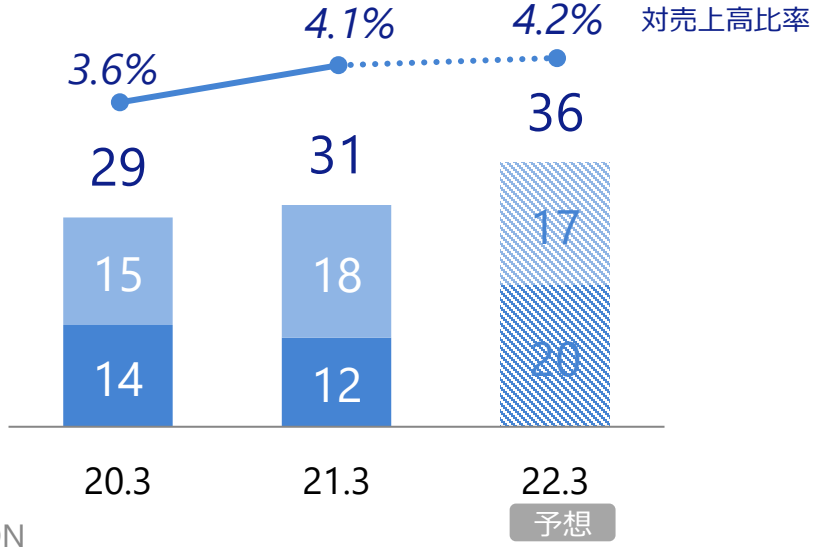
※リースを含む



減価償却費



研究開発関連費用



主な設備投資

- 電子部品：車載関連生産設備増強（中国・坂戸）
- 電子化学実装：国内外生産設備増強

主な開発投資

- 電子化学材料 新素材関連
- 車載用電子部品関連
- セミコン・結晶開発（酸化ガリウム）関連
- 音声卓（ミキサー）のネットワーク対応

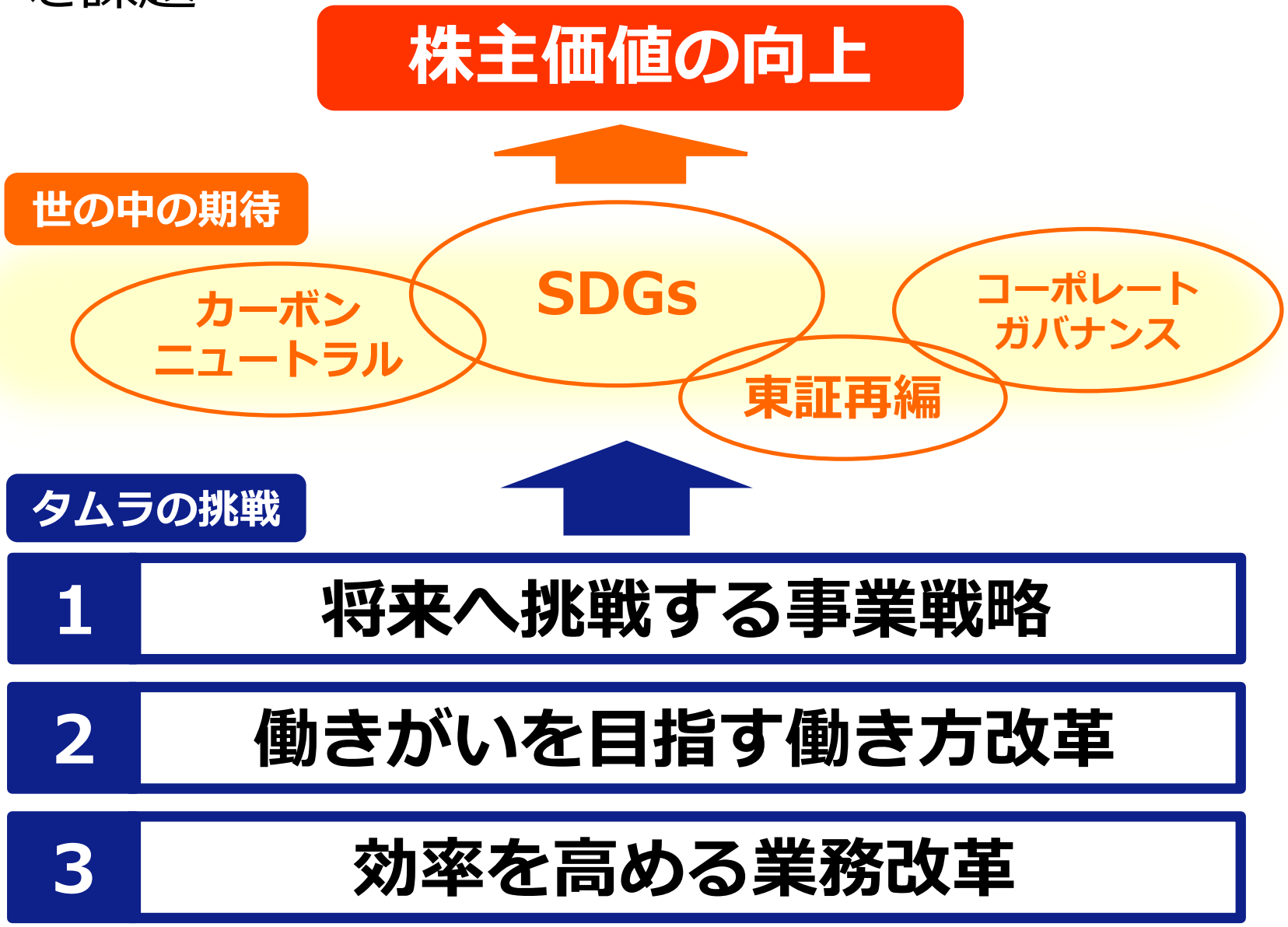
注：「研究開発関連費用」は、研究開発テーマに関わる
経費・労務費・設備投資などを、当社の基準で集計している値です。

© 2021 TAMURA CORPORATION

3. トピックス

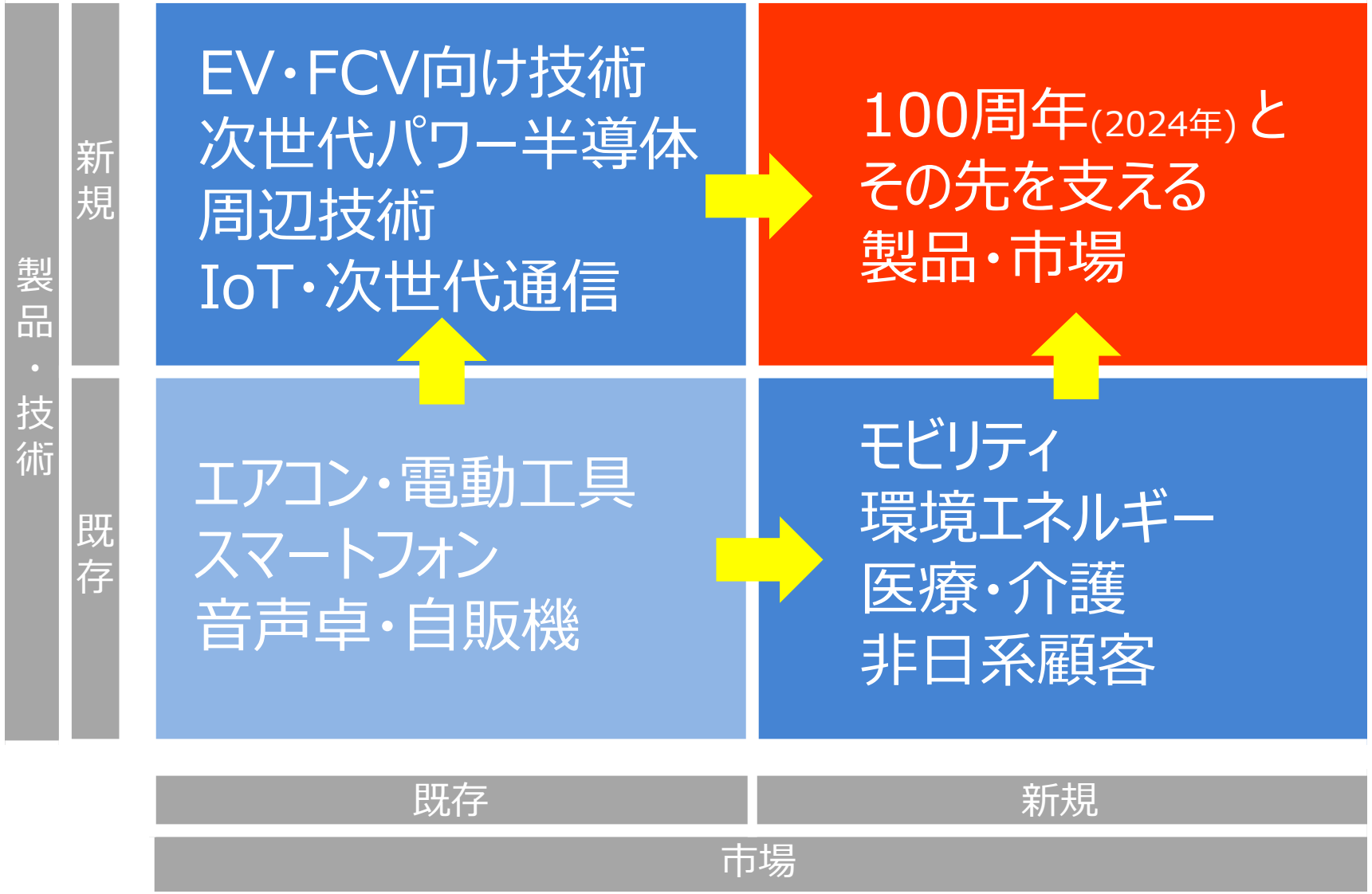
© 2021 TAMURA CORPORATION

対処すべき課題



© 2021 TAMURA CORPORATION

将来へ挑戦する事業戦略



© 2021 TAMURA CORPORATION

カーボンニュートラルへの貢献

タムラのトランス・リアクタはエネルギー変換の基幹部品
「高信頼」「高効率」の技術で脱炭素社会の実現に貢献します

- **発電** 風力発電や送配電で
- **省電** 電動化の要であるモータ・インバータ周りで
- **電動** 次世代自動車で
- **充電** EV充電や家電の急速充電で



© 2021 TAMURA CORPORATION

風力発電や送配電で

- クリーンエネルギーとして風力発電への注目が世界的に高まっています。
- 大規模な風力発電設備や、直流給電(HVDC)による送配電で、大型トランス・リアクタが使用されます。
- エネルギー用の大型トランスを　世界的に供給することが可能なメーカーとして、タムラはリードしています。

タムラは2010年から再生可能エネルギーをターゲットとした大型トランス・リアクタのビジネスに取り組んでいます。
高重量で輸送費もかかる製品ですが、世界8カ所の拠点から地産地消でお届けできるのがタムラの強みです。



風力発電・乾式空冷



送配電・直接水冷



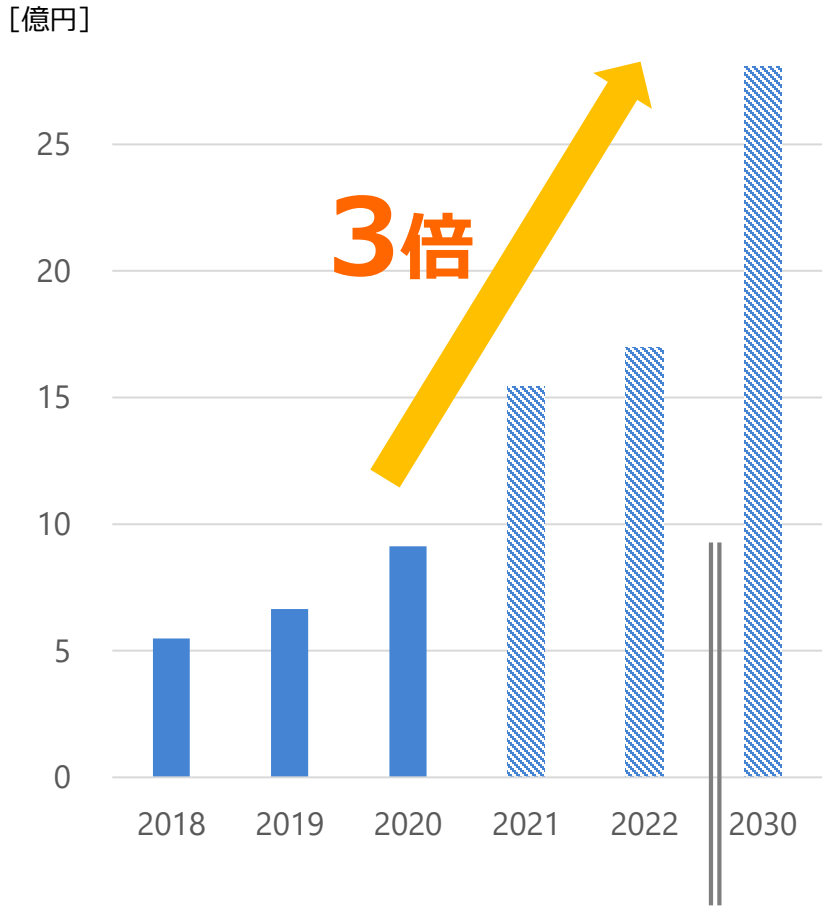
© 2021 TAMURA CORPORATION

大型トランス・リアクタ

主な用途と取り組み

市場	用途	主要顧客	主力製品
再生可能エネルギー	風力	欧米系	間接水冷
	太陽光	欧米系・日系	乾式標準品
データセンター	UPS	欧米系	乾式標準品
車載関連	EV充電器 バッテリーテスター	欧米系	乾式標準品 間接水冷
インフラ	大型インバータ 直流送電 水力発電	欧米系等	間接水冷 直接水冷

風力発電用大型トランス・リアクタ売上見通し



© 2021 TAMURA CORPORATION

モーターやインバータ周りで

- 自動車の電動化で、車載用リアクタは大きな成長が見込まれていますが、
  電動化の要であるモーター・インバータ周りの技術は、車載のほかにも、産機や家電でも共通です。
- 工場のCO2削減は、カーボンニュートラルの要請で急務となっており、
  タムラはトランス・リアクタや電流センサ、ゲートドライバモジュールなどで省エネをサポートします。
- 自社内においては、産機・車載・家電で、コア材を共通で対応することで、生産効率や品質向上を狙います。



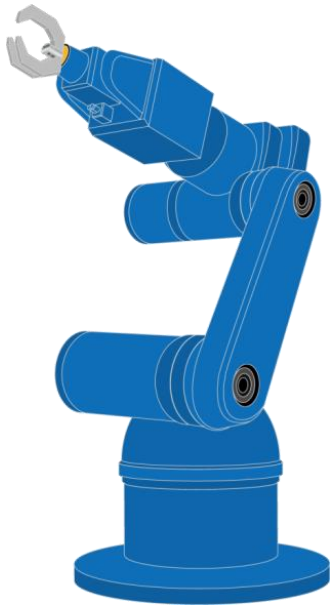
産業用トランス・リアクタ



エアコン用リアクタ



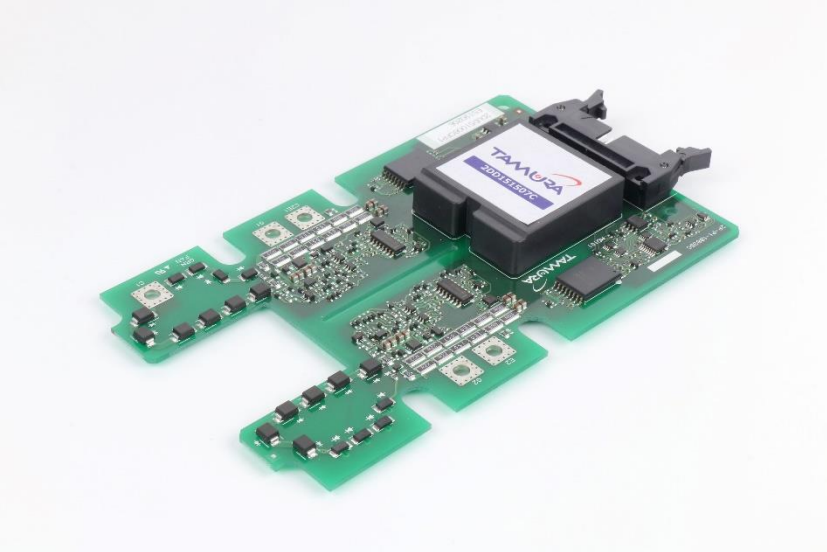
電流センサ



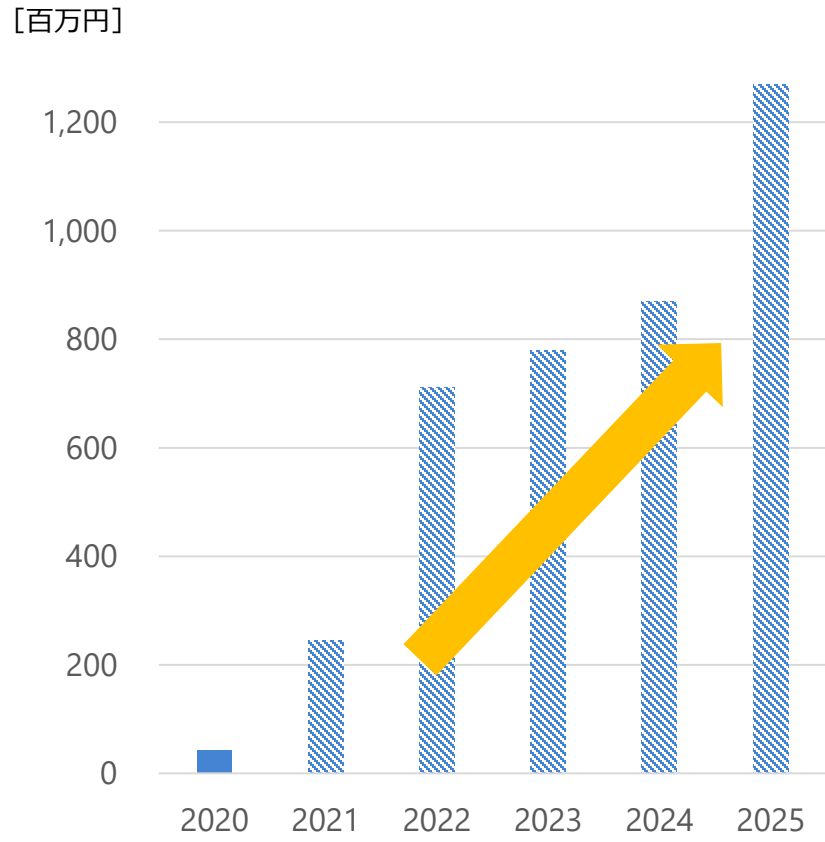
© 2021 TAMURA CORPORATION

ゲートドライバモジュール

- ゲートドライバモジュールは、インバータなどで使用される電力パワースイッチング半導体を駆動させる製品です。
- 低ノイズなのでIGBT、SiC-MOSFETのどちらにも対応可能。機器の設計を大幅に簡素化します。
- 風力発電のほかに鉄道などでも需要の拡大を見込んでいます。



ゲートドライバモジュール売上見通し



© 2021 TAMURA CORPORATION

One Tamura 未来開発イメージ

◆ 将来的には次世代パワー半導体をキーテクノロジーとして、リアクタ・電流センサなどの電子部品のほか、高耐熱ソルダーペーストをはじめとする電子化学製品などを含めて、当社製品によるトータルサポートを進めます。

・電子部品・電子化学材料の両方を扱うタムラだからできる
独自製品開発

・源流にある部品・材料だからできる
お客様の課題解決への
トータルサポート



© 2021 TAMURA CORPORATION

EV充電や家電の急速充電で

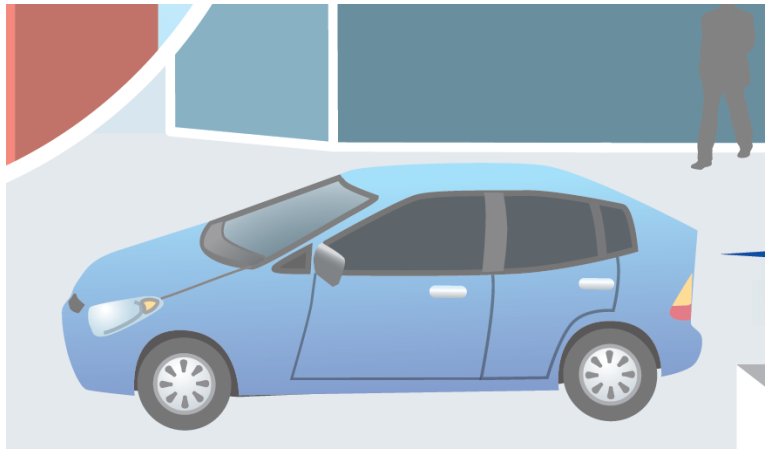
- EV化の進展に向け、車載向けの充電用リアクタを開発しています。
  充電スタンドでは大型のリアクタが使用されます。
- 電動工具や家電向けの急速充電チャージャが、コードレス化の進展で需要が高まっています。
  電動自転車向けをはじめとする新規顧客開拓も進めています。



車載充電用リアクタ



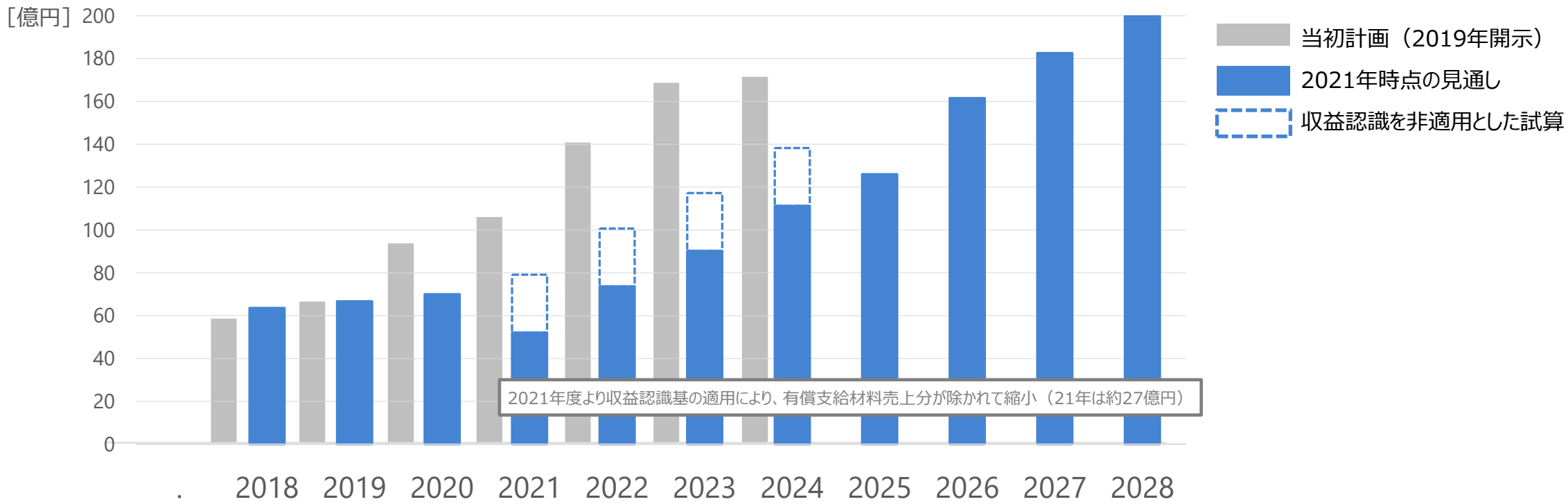
充電スタンド用大型リアクタ



© 2021 TAMURA CORPORATION

【最新情報】車載用昇圧リアクタ売上見通し

- コロナ影響と2021年度からの収益認識基準の適用で、当初計画より2年遅れ
- 2030年までに 売上**200億円** 達成を目指します



2019年
若柳量産開始

2022年
坂戸・田村汽車電子(佛山)
量産本格化

適切なタイミングを見極め
段階的に追加設備増強

© 2021 TAMURA CORPORATION

車載用昇圧リアクタ生産キャパシティ

株式会社若柳タムラ製作所



- 2019年下期より本格量産開始
- **50万台/年**の生産体制を構築済

▶ 最大**100万台/年**まで拡大

2021年下期
日中同時立ち上げ

タムラ製作所 坂戸車載新工場



- 2020年12月　建屋完成
- 2022年に新棟での量産開始時には、
  従来設備とあわせて**100万台／年**の生産体制

▶ 最大**150万台/年**まで拡大

田村汽車電子(佛山)有限公司



- 2021年1月　建屋完成
- 2022年に本格量産開始時の生産は**50万台/年**

▶ 最大**200万台/年**まで拡大

© 2021 TAMURA CORPORATION

【拠点最適化】電子部品中国生産拠点再編



2020年下期は工場再編と需要急増が重なり
生産効率が悪化しコスト増加につながりましたが、
今後は収益向上への寄与を目指します。

華南（A）	**田村汽車電子(佛山)有限公司**	2021年 建屋完成 2022年 量産開始予定	初の中国「車載用昇圧リアクタ」 生産専用工場を新設	新設
	田村電子(恵州)有限公司	2021年上期 工場移転	生産品目や工場動線の見直しで生産効率UP 環境対応を促進	生産改善
	田村電子(深圳)有限公司	2020年 10月 新工場の稼働開始	従来より借地面積・賃料縮小 チャージャ生産を田村電子(蘇州)に移管 電流センサ・モジュール製品の主力工場に	最適化
華東（B）	**田村電子(蘇州)有限公司**	2020年10月 本稼働	チャージャ生産の主力工場に 主要顧客近辺での生産により 顧客満足度向上、運賃・倉庫代の削減	集約
	田村精工電子(常熟)有限公司	田村電子(蘇州)へ 業務移管	機能集約による効率化	縮小

© 2021 TAMURA CORPORATION

【拠点最適化】電子化学タイ・ドイツ拠点

- **車載向けを中心に成長が見込まれる、非日系顧客へのソルダーペーストの拡販と、原材料（はんだ粉）からの一貫生産による地産地消による効率化を目指して、2017年タイとドイツに新拠点を設けました。**
- **タイでは2018年に新工場が完成。客先認証が進んだことで、2020年後半から本格的に生産が高まっています。ドイツでは、2019年にソルダーペースト生産棟を新設し、今後の欧州向けの拡販に備えています。**



タムラタイランド株式会社 第2工場

タイ工場（旧イーエスイー・インダストリーズ（タイ）株式会社）は2021年4月にタムラタイランド株式会社に統合しました。



タムラエルソルド有限会社

欧州の代表的な自動車関連メーカーが主要顧客。
自動車市場向け製品が、売上高の約6割を占めています。

© 2021 TAMURA CORPORATION

【情報機器・光波】技術融合による新市場・新製品開拓

◆ **放送局・通信事業者・鉄道などの大手顧客を持つ情報機器事業と、自動販売機向けLED製品で独自のソフト系技術を有する光波事業の技術融合により、新市場・新製品開拓を推進します。**

	情報機器事業	光波事業	連携効果
顧客	放送局・通信事業者・鉄道・ｾｷｭﾘﾃｨ関連などの大手顧客あり  ［音声調整卓］	自販機関連以外の顧客開拓が課題  ［連動ボタン］	情報機器顧客に**光波融合製品**を拡販  ［3D人感センサ］
技術	通信系技術 ・ネットワーク技術 ・無線技術 ・音声伝送技術	ソフト系技術 ・人感センサ ・独自のソフトアルゴリズム	**・ソフト技術の集約** ・将来的には電子部品や実装装置など、タムラの他の事業部のソフト設計も期待
その他	タムラ製作所　ユニット事業との連携		設計・生産力強化
	スタートアップとの連携、M&A		新技術の取り込み

情報機器事業の
セキュリティ顧客関連に
光波の「人感センサ」
を提案中

One Tamuraで

**新市場
成長市場
へ参入**

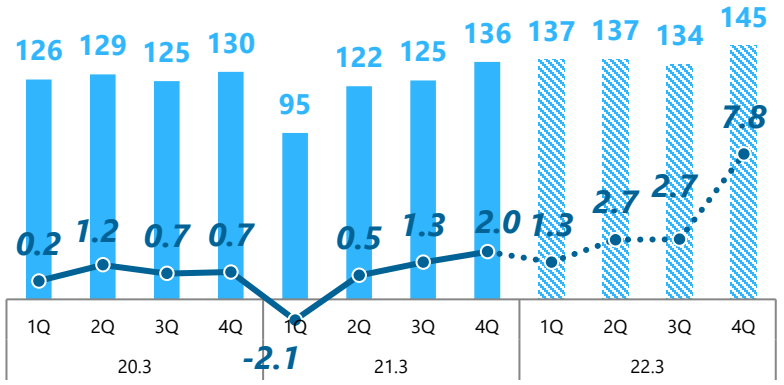
ホームセキュリティ
介護・見守り
社会インフラ
防災
・・・

© 2021 TAMURA CORPORATION

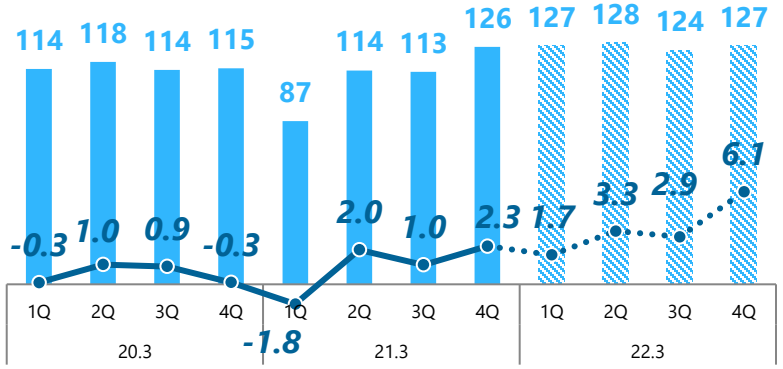
【情報機器・光波】事業の一体化に向けて

◆ **これまで光波事業（LED事業）は電子部品事業セグメントの扱いでしたが、事業活動全般において情報機器事業と連携を強めていることから、2022年度より情報機器事業の扱いとする予定です。**

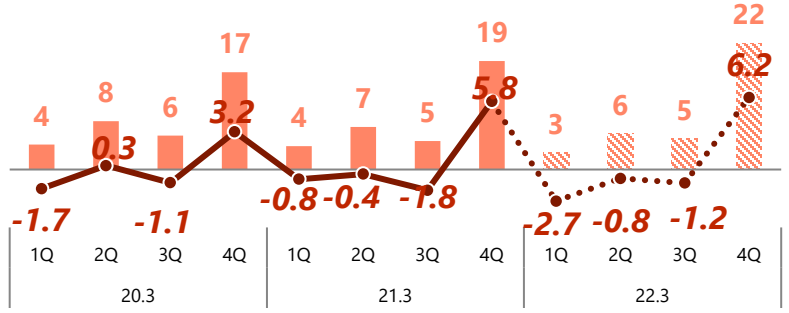
電子部品



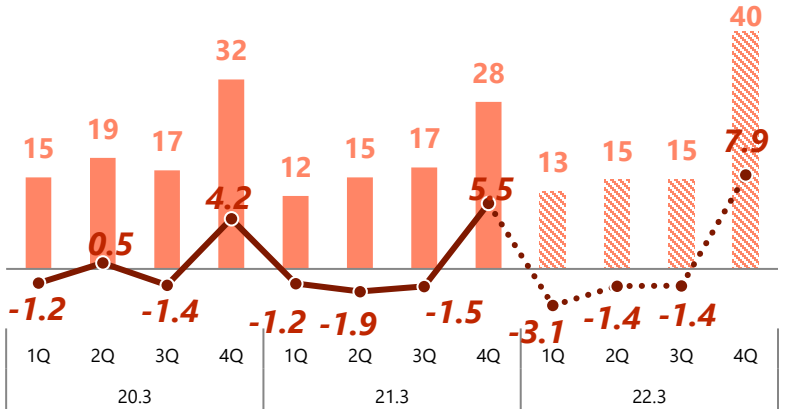
従来電子部品ー光波事業　期末集中の傾向が弱まる



情報機器



従来情報機器＋光波事業　期末集中がより顕著に



© 2021 TAMURA CORPORATION

【付録】参考資料

© 2021 TAMURA CORPORATION

会社概要

資本金：11,829百万円
連結従業員数：4,447名
連結売上高：73,906百万円
東証一部上場
代表取締役社長：浅田昌弘

売上高　：2021年3月期実績
従業員数：2021年3月末現在



日本(本社：東京都練馬区)
・売上高：31,634百万円
・従業員数：1,217名

中国
・売上高：19,161百万円
・従業員数：1,757名

その他アジア
・売上高：12,368百万円
・従業員数：1,128名

欧米
・売上高：10,741百万円
・従業員数：345名

© 2021 TAMURA CORPORATION

タムラの歩みと事業領域

１９２４年創業
「田村ラヂオ商会」



トランスを極める！

１９２４年～
ラジオ、蓄音機の製作・販売



接合技術を極める！

１９３０年～
トランスの自作化



いい音（信号）を極める！

電子部品関連





- １９５６年～ 磁性材料
- １９５６年～ 電源装置
- ２００８年～ LED関連製品
- ２００９年～ 車載用リアクタ
- ２０１０年～ 大型トランス

電子化学実装関連





- １９５６年～ フラックス
- １９５７年～ ｿﾙﾀﾞｰﾍﾟｰｽﾄ
- １９６１年～ レジストインク
- １９６８年～ はんだ付装置
- ２０１０年～ FPC用レジスト

情報機器関連



- １９６１年～ 放送用音声卓
- １９６２年～ ワイヤレスマイク
- １９７６年～ 伝送監視装置
- ２００３年～ ﾃﾞｼﾞﾀﾙ放送設備
- ２０１５年～ 8K向け音声卓

© 2021 TAMURA CORPORATION

あなたの街のタムラ



タムラ製作所公式ウェブサイトで会社紹介動画を公開中　https://www.tamura-ss.co.jp/

© 2021 TAMURA CORPORATION

第12次中期経営計画



Biltriteとはタムラ創業期の製品である電気蓄音機・アンプに使用され、
特に高級品、高品位品に付けられた由緒ある商標です。現存するカタログとして
最も古い昭和12年発行のカタログ第3号の冒頭に、次のようなコメントが記されています。

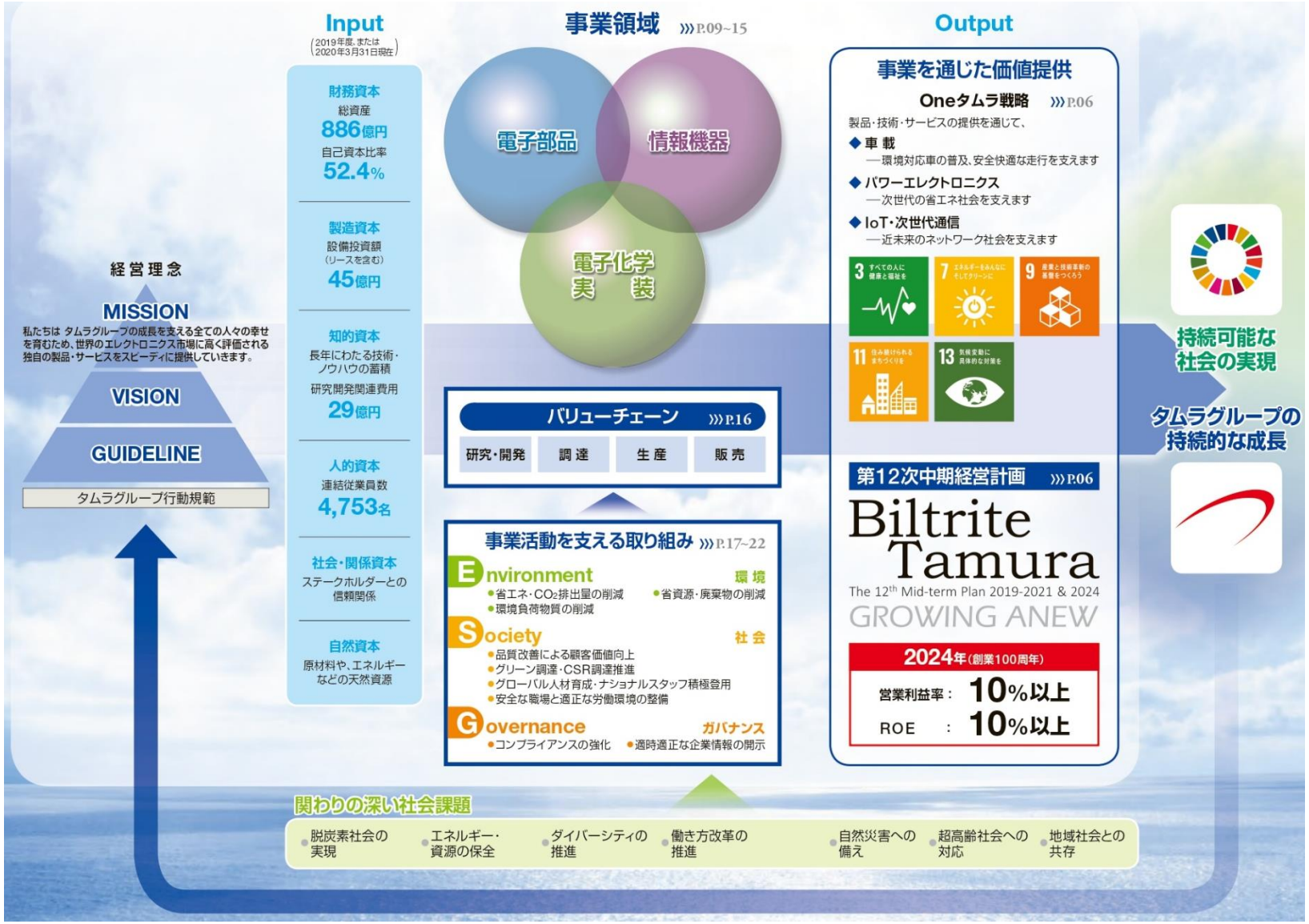
「当製作所の製品にはBiltriteの商標を付けてあります。是は製品に対して
絶対的に責任を持つ意味であります。御買求めに際し、Biltriteの商標は
品質に対する一種の保険証書として御承知置き下さい。」

創業75周年社史「21世紀へのみちしるべ」より

© 2021 TAMURA CORPORATION

Build up + right

タムラグループの価値創造



© 2021 TAMURA CORPORATION

弊社からのお願い

本資料の業績予想、見通し及び事業計画については、現時点における
将来環境予測等の仮定に基づいております。
本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

株式会社タムラ製作所　経営管理本部
TEL：03-3978-2031

© 2021 TAMURA CORPORATION